



福島 114 便(視察研修 7 号)報告書

《富岡町・大熊町・檜葉町》

1. 実施日

2019 年 11 月 16 日(土)～11 月 17 日(日)

2. 目的

- (1)東日本大震災と原発事故を『伝えていく』
- (2)地元の現状、今を『正しく知る・伝える』
- (3)自分達にできることを『考える』

3. 主催

かながわ「福島応援」プロジェクト(kfop)

4. 協力

平山 勉 様

(相双ボランティア代表、双葉郡未来会議事務局、有限会社ホテルひさご代表平山"two"勉)

一般社団法人おおくままちづくり公社

木戸川漁業協同組合

ふたばいんふお、富岡ホテル

azbil みつばち倶楽部、端数倶楽部(活動報告冊子化)

5. 視察研修実施資料

福島 114 便(視察研修 7 号)案内資料 v1.2(別紙)

(富岡町、大熊町、木戸川漁協の紹介、他)



目次

| | |
|-------------------------|----|
| 1. はじめに..... | 3 |
| 2. 視察研修場所・時間等 | 4 |
| 3. 視察記録(写真一部)..... | 7 |
| 4. 視察研修参加者報告..... | 14 |
| 5. 参加者情報..... | 43 |
| 6. 視察研修便参加者アンケート集計..... | 44 |
| 7. 会計(実績)..... | 47 |



1. はじめに

平山勉 様

一般社団法人おおくままちづくり公社 事務局長 高田吉弘 様

木戸川漁業協同組合 鮭心化場長 鈴木謙太郎 様

富岡ホテル 支配人 渡辺信一 様

ご多用にもかかわらず、この度の視察・研修に丁寧にご準備、ご対応いただいたすべての皆様に、厚く御礼申し上げます。実際に現地を訪れて話を伺うことで初めて感じられることもあり、貴重な機会となりました。

また詳細な最新の資料をご用意いただき、復興へ向けての実情と課題について理解を深めることができました。これらの資料は、今後の活動に際して何が必要なのか考えていく良い資料になると思います。

今後また訪れ、味わう楽しみもできました。またお会いできるのを楽しみにしています。

- ・富岡町:夜ノ森の桜並木やツツジ、麓山の火祭り、富岡漁港からの釣り
- ・大熊町:イチゴ
- ・木戸川漁協:鮭まつり

私達が現地に足を運ぶ理由

自分が現地に行って・自分の目で見て・自分の耳で聞いて・自分で体感して、感じる
そして、正しく知り、正しく伝える、それが大事なことと考えます。

現地に足を運んで初めてわかることはたくさんあります。

今回の訪問はとても貴重なものと思います。

参加者一同大切にさせていただきたいと思います。

かながわ「福島応援」プロジェクト
代表 渡辺孝彦 / 広報 東尚子
参加者一同



2. 視察研修場所・時間等

2.1. 行程

1 日目:2019 年 11 月 16 日(土)

07:00 横浜出発～首都高速、東神奈川～
08:45 常磐自動車道 守谷 SA(15 分休憩)
10:15 常磐自動車道 中郷 PA(15 分休憩)
11:00 J ヴィレッジ、道の駅ならば立寄り
12:00 ふたばいんふお(平山さんレクチャー)
12:30 富岡町内の視察(平山さんご案内)
14:00 リプルンふくしま
15:30 東京電力廃炉資料館
16:30 ふたばいんふお(資料閲覧とビデオ視聴)
18:30 富岡ホテル～各自夕食
19:30 懇親会(富岡ホテル支配人のお話し)
21:00 懇親会仲締め、最終 22:00 就寝

2 日目:2019 年 11 月 17 日(日)

07:00 起床～朝食・出発準備／08:30 チェックアウト
08:40 出発
09:00 大熊町役場(高田様ご講話)
09:30 大熊町内の視察(高田様ご案内)
11:30 木戸川漁協(鈴木様のご案内・ご説明)
12:30 なら福(昼食)
13:20 竜田駅
13:30 竜田駅～広野 IC～常磐自動車道
14:40 中郷 SA～守谷 SA
17:00 守谷 SA～横浜
19:00 横浜解散

2.2. 富岡町の視察研修の様子

◆J ヴィレッジ、道の駅ならば

わずかな時間だが立ち寄ることができた。J ヴィレッジには 2015 年 10 月の視察研修で立ち寄ったが、当時はまだ第一原発関連の作業に従事する方々の拠点として使用されており、フィールドは駐車場となっていたが、現在では芝生が輝くサッカー場として復活した様子を見ることができた。また、双葉警察署の臨時庁舎として使用されていた道の駅ならば(2019 年 4 月に営業再開)にも立ち寄って買い物した。



◆ふたばいんふお

まず、相双ボランティア代表／双葉郡未来会議 事務局の平山勉さんに双葉郡についてレクチャーしていただき、ふたばいんふおに集められた双葉郡 8 町村の資料を拝見させていただいた。これまでの視察研修で町村ごとに訪れてきた双葉郡全体の状況をあらためて学ぶことができた。また、昭和 9 年の夜ノ森の桜まつりを記録した貴重な映像や、震災後の映像などを見せていただいた。

◆富岡町

[双葉警察署(車窓)～東電復興本社(車窓)～夜ノ森ゲート(降車)～夜ノ森駅(車窓)～小良ヶ浜(車窓)～スポーツセンター～観陽亭跡(降車)～富岡漁港(車窓)～富岡駅／さくらステーション KINONE(降車)～富岡ふるさと生産組合の田圃(車窓)]

次に、平山さんに富岡町内をご案内いただいた。2015 年 4 月の視察研修で訪れた場所も含まれており、解体されたところ、再建されたところ、造成が進む工業団地などを見ることができた。

◆特定廃棄物埋立情報館リプルンふくしま

環境省が事業としておこなっている特定廃棄物の埋立処分について、展示を見ながらご説明いただいた。その後で実際の埋立地に移動し、見学させていただいた。

中間貯蔵施設の話は知っていても、この最終処分場については知らなかったという声もあり、視察研修として意義があったのではないかと思う。

◆東京電力廃炉資料館

東京電力の旧「エネルギー館」をリニューアルして設置された廃炉資料館で、ご説明を聞きながら見学した(閉館時間の都合で全部はじっくり見られなかった)。

◆富岡ホテル

懇親会で、支配人に少しお時間をいただき、富岡ホテルの設立経緯と富岡町のみなさんの想いのお話を聞かせていただいた。また富岡町に遊びに来てくださるとのお言葉をいただいた。

2.3. 大熊町の視察研修の様子

◆大熊町

[大熊町職員寮～富岡 IC～国道 6 号～熊地区～熊川～中間貯蔵工事情報センター～県立大野病院～大熊 IC～復興公営住宅(すべて車窓)]

まず、「おおくま通信」(2019 年 8 月発行)を元に、おおくままちづくり公社の高田吉弘 事務局長にレクチャーしていただいた。次に、町内をご案内いただき、最後に、役場に着いてから質疑応答の時間を設けた。

2015 年 10 月の視察研修で訪れた際の大河原地区の仮庁舎の面影はすっかりなくなり、避難指示が解除された地区の新しい姿を知る一方で、依然として立ち入りが制限されている帰還困難区域



や、土地を手放すことになった方も多い中間貯蔵施設の敷地内とで、分断が生じているという課題も知ることができた。

2.4. 木戸川漁協の様子

◆木戸川漁業協同組合

鮭ふ化場長の鈴木謙太郎さんに、漁協の事業や、震災前・震災後の状況をご説明いただいた。また、2019年の台風19号とその後の大雨で被害を受けた木戸川の川岸、鮭のやな場の様子もを見せていただいた。最後に、鮭のふ化場を見学させていただき、漁獲量が少ない今年の貴重な鮭と受精卵を見せていただいた。

2.5. 最後に

2020年3月には、富岡町の夜ノ森駅や大熊町の大野駅を含めたJR常磐線の全線が運行再開する予定となっている。また4月には夜ノ森の桜まつり、10月には木戸川漁協の鮭祭りが開催される。関心を持つ方々がまた双葉郡を訪れるきっかけとなればと願う。

2.6. 視察研修資料等

| 資料名 | ご提供 |
|-----------------------------|--------------|
| 復興状況と町の現状 | 発行:富岡町 |
| ふたばいんふおリーフレット | 発行:双葉郡未来会議 |
| ふたばいんふお 2019 冊子 | 発行:双葉郡未来会議 |
| 相双ボランティアちらし | 相双ボランティア |
| リプルンふくしま冊子 | リプルンふくしま配布物 |
| 特定廃棄物の埋立処分事業 | 発行:環境省 |
| 東京電力廃炉資料館冊子 | 東京電力廃炉資料館配布物 |
| おおくま通信 2019年8月 | 発行:大熊町 |
| 木戸川漁協の2020年度カレンダー | 木戸川漁業協同組合 |
| 福島 114 便(視察研修 7 号)案内資料 v1.2 | 当団体作成の事前案内資料 |

3. 視察記録(写真一部)

～ 広野町・檜葉町 ～ 富岡町 ～



Jヴィレッジ



Jヴィレッジ



道の駅ならは



道の駅ならは



ふたばいんふお



平山さんのお話

～ 富岡町 ～



夜ノ森



富岡町内



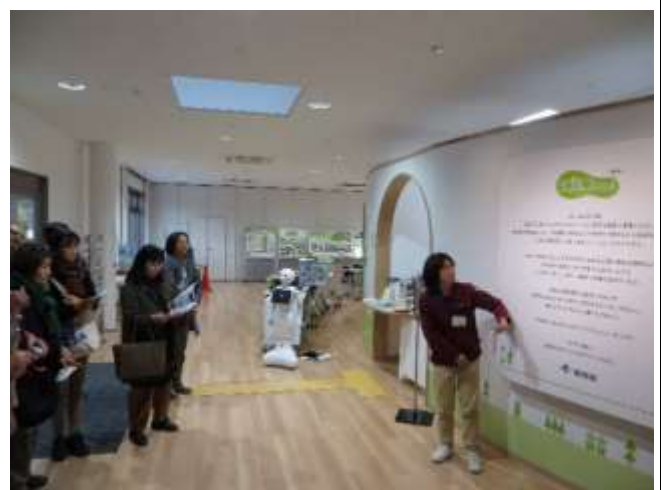
観陽亭跡から第二原発



富岡漁港



富岡駅



リプルンふくしま

～ 富岡町 ～



特定廃棄物埋立処分場



特定廃棄物埋立処分場



特定廃棄物埋立処分場から第一原発



東京電力廃炉資料館



原子炉建屋の壁の厚さを示す展示



富岡町内視察後

～ 富岡町 ～



富岡ホテル、支配人からお話し



富岡ホテルの夕食



富岡町の朝日



富岡駅ホーム



富岡ホテル



富岡ホテル前にて

～ 大熊町 ～



大熊町役場



高田事務局長のお話し



祭りの笛のご披露



大熊町役場前にて



大熊町役場前



大熊町(変わらぬ 6 号線)

～ 木戸川漁協(榎葉町) ～



木戸川漁業協同組合



鮭ふ化場長 鈴木さん



鈴木さんのご説明



震災時の津波の様子



稚魚の慰霊碑



木戸川のやな場でのご説明

～ 木戸川漁協(檜葉町) ～



台風 19 号で痛手を受けたやな場



鮭



鮭の受精卵(今年はこれだけ)



木戸川漁協前にて



なら福(各自昼食)



竜田駅

4. 視察研修参加者報告

参加者に、視察研修を通じて学んだこと、感じたこと、伝えたいことなどをレポートとして提出していただき、以下に視察研修報告としてまとめました。ご高覧いただけましたら幸甚です。

なお、参加者の研修報告の内容・文章は、明らかな誤字脱字の場合を除いて変更を加えていません。記録上、不適切な内容・表現があるかもしれませんが、それぞれの参加が実際に感じたことです。ご理解いただけましたら幸いです。

また、参加者氏名は無記載とさせていただきます。

《以下、参加者報告》

【参加者:女性 50 代】

視察研修を通じて学んだこと、感じたこと、伝えたいことなど

【富岡町】

- ・ 「ふたばいんふお」で平山さんからレクチャーしていただいた。2011 年 3 月当時の双葉郡の人口が約 74,000 人で、原発事故によって避難を余儀なくされたが避難所に入りきれず、何度も避難先を変えながら全国に散り散りになった経緯がある。これを地理的に神奈川に置き換えると 20km 圏で 347 万人もの人が避難する計算になり、避難はほぼ不可能ではないかと投げ掛けられた。このように、自分事として想像できるような伝え方を考えていく必要があるだろう。
- ・ 多くの市町村の統計では、「帰還者数」ではなく「町内居住者数」という表現を使うようになってきている。これは、震災後に新しく転入する人もいるからだ。また、住民登録をしていないが実質的に居住している人も多いようだ。地域に元々住んでいた人、新しく入ってきた人、中長期的に滞在して何らかの形で地域経済にかかわる人が、どのように交わるのか、あるいは交わらないのか、注目していきたい。
- ・ 2020 年 3 月に常磐線全線で運行再開が予定されているのが楽しみだが、帰還困難区域(特定復興再生拠点区域)内の駅で下車してどこかに立ち寄れるのか等、気になるところだ。
- ・ 「リプルンふくしま」を見学。まず、特定廃棄物埋立処分事業については、放射能濃度 10 万 Bq/kg を特定廃棄物として富岡町で最終処分すると決められた経緯がよくわからず、気づいたらすでに埋立事業が始まっていたように感じていた。また、この基準はどうやって決められたのか明確な説明がなかったので質問させていただいたが、たとえばドラム缶の表面線量率が $23 \mu\text{Sv/h}$ 以下であり作業員の追加被ばく線量が年間 1mm を超えない値、という答えだった。こういった一連の説明は、環境省の目線でしかなく、あえてそうしているのかと思うほど、周辺の住民の感情に寄りそう姿勢が感じられなかった。また処分場は最終的に 11 段目まで埋め立てる計画で、下から 4 段目までは元々の産業廃棄物がすでに埋まっており、特定廃棄物は 5 段目から埋め始めて現在 8 段目を造成中との説明だった。事業期間はあと 8 年あるが埋め立てきれぬのか、また、特定復興再生拠点区域から出る廃棄物は未知数なのでは

ないかという疑問もある。

- ・ 東京電力廃炉資料館を見学。映像や掲示物では「安全に対するおごりと過信」、「反省」、「おわび」などの言葉が繰り返されるが、一方的な見せかけの態度だと感じた。避難を余儀なくされた方々や、被災された事業者、漁業者の方々などから直接伺った話、処理水に関連する情報公開や対話で見られる姿勢などは、これらの言葉とはまったく相反していると思う。
- ・ 最後に「ふたばいんふお」で双葉郡にまつわる映像を見せていただき、心がなごんだ。今後も双葉郡の状況について、発信される情報を参考にさせていただきたい。

【大熊町】

- ・ 大熊町役場で資料「おおくま通信」を基に、おおくままちづくり公社の高田さんにご説明いただいた。大熊町は東京電力第一原子力発電所が立地しており 2011 年 3 月 11 日には 3km 圏内に避難指示が出て、翌日には全町避難となったこともあり、建物被害の調査ははまだ完了しておらず、被害状況がまだ確定していないとのこと。また、役場機能を臨時に移す先としてすべての条件を満たした会津若松市を選んだが、気候の違いや仕事の都合などの理由で、いわき市に避難先を移す人が次第に増えた経緯がある。
- ・ 大熊町は、避難指示解除準備区域、居住制限区域、帰還困難区域の 3 つに区分されたことで、住民が受け取る補償の差などの分断が生じた。大熊町では先祖代々受け継がれてきた土地が多い。中間貯蔵施設に含まれてしまい土地を失った行政区、土地は残ったが除染もされないまま手つかずの行政区など、それぞれの苦しみと分断がある。一方で、避難指示を解除できる区域があったことで新庁舎を建設できた面もある。帰還困難区域内に計画されている特定復興再生拠点区域は 2022 年の解除を目指しているそうだが、常磐線の開通に合わせて住民の足が確保されるといいのだが。
- ・ 盆踊りは、以前は行政区ごとに開催していたが、今は人が足りないので今年は町全体の盆踊りとして開催した。本当はお囃子も少しずつ違うのだが、うまく合わせながら盛り上げたそうだ。
- ・ 住民意向調査で帰町する意向があった人が帰ってくるとすると、居住者は約 1,500 人になるそうだ。新しい公営住宅はすべて埋まっており、追加で建設する計画がある。また、被災者以外の一般の人も入居できる住宅が建設されている。しかし、買い物できる場所は現在は仮設店舗しかなく、医療機関もないため、大熊町の町内循環バスは富岡町のさくらモールや診療所も回るそうだが、近隣の町どうしでうまく連携し補い合って生活環境を整えられるといいと思う。
- ・ すぐには帰還できなくても、避難先にいても「帰れるふるさどがある」ことが大切という言葉のとおり、町にいる方々と避難先にいる方々との、情報交換しながらふるさとを守っていかれることを祈念したい。



【木戸川漁協】

- ・ 鮭ふ化場長の鈴木さんにご説明、ご案内いただいた。榑葉町の木戸川は、鮭が遡上する川としてはほぼ南限であり、婚姻色になっても身がオレンジ色のままなのが特徴。震災前の鮭祭りは、5000 人ほど来場者がある人気のイベントだったそうだ。
- ・ 震災前から鮭ふ化事業が主力だったが、避難指示が出ていた間は稚魚の放流ができなかったこともあり、現在は震災前の 10 分の 1 ぐらいの漁獲高となっている。鮎事業(ふ化、養魚)は施設が壊れたこともあって断念されたとのこと。一方、遊漁事業(ヤマメ、イワナ、鮎)はそろそろ再開できるかもしれないとのこと。特に鮭釣りは人気があり、平成 15 年に太平洋岸では初めて木戸川と泉田川で行われたが、抽選で 150 人が参加し、産卵前にもかかわらず力強い引きで人気があったそうだ。
- ・ 従来、鮭は 4 年で生まれた川に戻ってくると言われていたが、最近の調査では 5~6 年ものが多いようだ。実験で、川の匂いを頼りに帰ってくるのではないかとされているが、詳細はまだわかっていない魚だ。
- ・ 東日本大震災の津波では、漁協の建物は胸の高さぐらいまで浸水し、建物自体は残ったが、がれきが押し寄せていた。水槽の稚魚は全滅した。2012 年に避難指示解除準備区域になり、数年後には帰れるかもしれないという希望を持てた。できるだけ早く戻りたいと思い、役員や組合員で少しずつ片付けを進めたとのこと。
- ・ 2015 年から 2018 年までは 3000~8000 匹の間で推移してきたが、今年は台風 19 号とその後の大雨の影響があり漁の開始が遅れたこともあり、まだ 250 匹。今日の午前の漁では 4 匹のみだった。今年は全国的に鮭が少ないこともあり、他から稚魚をもらえる可能性は低く、自分たちで確保しなければならない。
- ・ 震災後の状態からここまで来られたのだから、苦境には慣れているとも言える。少しずつやっていけばいいと思っている。鮭は稚魚を放流しないと、自然の状態ではなかなか遡上しないのだが、それでも 7000~8000 匹戻っていたのは、川の環境が良いということ。
- ・ 今年、鮭のやな場が被害を受けたことは、漁協の皆様にとって大きな痛手でありご心労であったと思うが、川の環境を大切に守りながら、鮭事業が再び盛り上がることを心から願っている。

【参加者:女性 50 代】

視察研修を通じて学んだこと、感じたこと、伝えたいことなど

【富岡町】

平山さんの「富岡は負けん」すばらしい言葉です。

震災後 8 年が過ぎ、環境や人が変わっていく中で、情報発信ができる、ふたばいんふおや未来会議の役割と若い方々の想いと活動が、とても頼もしいと思います。



ふたばいんふお cafe135 へは、ぜひ開いている時に行きたいです。

特定復興再生拠点区域、居住可能、環境整備、帰還困難区域を通る JR 常磐線 3 駅、夜ノ森駅の ツツジ、富岡漁港、中間貯蔵施設、119 年夜ノ森公園の桜、桜モール、新しい家、道路などたくさん見せていただきました。

J ヴィレッジもより素晴らしいグラウンドを持つ施設になりました。

これからの道のりを共に歩む人が増えてくるでしょう。

リプルンふくしまと特定廃棄物処分施設

埋め立て施設、これには自分の理解がついていかない感じがありました。ゆっくり勉強させていただきます。

廃炉資料館は、廃炉を終えてからもう一度行ってみたい。

そして震災時の様子とその後の話を伺い、改めてあの時に、私自身が、東電や国が言う原子力発電はクリーンで安全だという説明や見学会に参加し、そのまま全てを受け入れていたことに愕然としたことを思い出し時間の経過に薄れてしまった感情を反省しました。

できるだけ町の変化についてき、少しでも足を運び、忘れないようにすることは私にもできると思います。

【大熊町】

全町避難から、独自で各町民の行き先、情報を追跡していった様子は想像を絶するものだと感じています。

素晴らしい新庁舎での高田さんのお話は震災と原発事故から全町避難とその後の立ち入り禁止区域と人の分断、中間貯蔵施設、復興計画の歩みと特定復興再生拠点、大河原地区復興拠点、再生、廃炉、そして現在の避難先と大熊町の繋がりなどお話いただきました。

高田さんご自身の家の様子も淡々とお話をされていましたが、先祖代々住んでる方を含め、考える時間も許されない状況で進んでしまうことが当たり前のように感じました。

大熊町の方々の出稼ぎで東京の水道、地下鉄を作っていたと話を伺い
東京へ電気を送るための原子力発電



ふるさと大熊町へいつか戻りたいと思う人
大熊町へ戻る人、時折戻り再会を楽しむ人、新しく町民になる人
新しい大熊町が始まっていく途中なのだと理解し始めたところです。

町はこうでなくてはいけないと、勝手に思っていたこともありました。
少し時間がかかりましたが、ありのままを受け止めていくことが大事なのだと思うようになりました。

【木戸川漁協】

震災時の津波、天神岬へ逃げたこと、東電の補償より自分たちで何とかしたいするしかないところから始めた施設の復旧の様子、今回の台風や大雨の被害が甚大だったことや今年に期待されていたこと、今年は全国的にも鮭が不漁とは知らなかった。

出来たばかりの水門も被害を受け
やな場の被害
本当に心が折れてしまうことが何度も続く中
鈴木さんの熱い想いが伝わるお話をさせていただき感謝いたします。

以前の木戸川での遊漁の話はとても魅了的でした。
また遊びに立ち寄りたいと思います。

本当にたくさん知らないことばかり
再訪する機会を作りたいです。

【参加者:男性 50代】

視察研修を通じて学んだこと、感じたこと、伝えたいことなど

【富岡町】

1. 双葉郡の歴史と富岡町の現状について(講話)

歴史についてお話を聞いたあと、津波と原発事故の際のお話を聞いた。津波で避難するときは車の渋滞が起こったこと、避難所が不足していて次から次へと西の方に避難したというお話を聞いた。今年(2019年)の台風・豪雨による川の氾濫でも、渋滞や避難所不足が起こっており、過去の経験が活かされていない現在の災害対応の稚拙さを感じた。自治体の関係者は過去の被災地の経験をもっと学ぶべきであろう。

富岡町の現状については、過去 16,000 人いた人口がまだ 1,000 人しか町内に戻ってきていない

というお話を聞いて、原発事故からの町の復旧・復興がいかに難しいかを痛感した。それでも、今年には富岡漁港が再開し、来年は常磐線の開通予定ということで、一步一步復旧が進んでいるとは思った。また正確な情報を発信する「ふたばいんふお」の役割は大きい。

2. 富岡町の視察

帰還困難区域の状況を視察した。名物の夜ノ森の桜並木の道が立ち入り制限ゲートによって分断されている状況、帰還困難区域内の建物が荒れはてている状況を見た。また、居住できないで建物が無人であるがゆえに、最初は盗難があり、その後イノシシ、ハクビシン、アライグマなどの野生生物が建物内を荒らしているという痛ましい話を聞いた。原発事故で無人となった区域での建物の維持管理の難しさを知った。

富岡漁港を見学しながら、港湾施設が十分ではないため、ほとんど水揚げされない現状のお話を聞いた。町の復興に対して国の対応がいかに遅いかを感じた。オリンピックが無ければ、もう少し早くに東北の復興のために資材・人員が投入できたのではないかと思った。

3. 「リプルンふくしま」と特定廃棄物埋立処分施設の視察

特定廃棄物埋立情報館「リプルンふくしま」で、原発事故で出された放射性廃棄物の処理のしかたと処分方法の説明を聞いた。「特定廃棄物」という用語は初めて聞いたし、富岡町に埋立処分されていることも初めて知った。土砂等の除染廃棄物の中間貯蔵施設についてはマスコミでも報道されて知っている人も多いと思われるが、それより線量が少ないとはいえ、特定廃棄物については広く知らせていないのは、反対意見や風評被害を遮るためかと勘ぐってしまう。

ただ情報発信施設「リプルンふくしま」を設置して正確な情報を発信する姿勢は良いと思う。

特定廃棄物埋立処分施設(処分場を含む)を見学しながら、施設の説明を受けた。放射線の測定・管理をいかに厳重に行っているか、外に漏れ出ないように処分場がいかに厳密な構造であるかというお話を聞いた。お話を聞いた限りでは、信頼できそうに感じた。ただ、これからも永久にモニタリング等の措置や補修を講じるということで、原発事故の後処理があとあとまでいかに大変なものであるかを感じた。原発を推進する人々は、こういったことを知っているのだろうか。原発事故まで想定すると、原発のコストは決して安いものではない。

4. 東京電力廃炉資料館

原発事故がどのように起こったか、なぜ起こったかを映像を見て、説明を聞いた。東京電力の説明では、原発事故当時は津波対策を検討中であつたと述べていたが、天災はいつ起こるかわからないものであるため、長期間検討中のままとということ自体がナンセンスと感じ、私には経費節約のために重要な対策を後回しにした単なる言い訳にしか聞こえなかった。

事故を起こした原発の廃炉を 30～40 年と説明していたが、この年数での処理は可能だろうか。通常の何も事故を起こしていない原発でさえ、廃炉まで 30～40 年かかるのに、事故を起こして

核燃料デブリを取り出す方法もまだ確立されていない原発の廃炉も 30～40 年と言って良いのだろうか。東京電力の見通しは甘いのではないかと思った。

また、東京電力の説明では、これから安全レベルを高めていくと述べているが、それを聞いて、かつて原子力発電は安全であると言っても事故を起こしてしまった反省はどこへ行ってしまったのだろうかと思った。どのようなものにも無事故に等しい絶対的な安全というのは無いのである。柏崎刈羽原発の再稼働を求めているように、事故を起こした原子力発電事業を東京電力が今後も継続し続けることには大きな疑問が私にはある。

【大熊町】

1. 大熊町の現状について(講話)

原発事故前は、キウイ、ナシなどのフルーツやサケ、ヒラメ(養殖)が特産品の町だったとお話を聞いた。原発事故後、会津に避難することを目指したが、距離が遠いので、いわき市や郡山にも避難した町民が大勢いた。現在再稼働している原発立地自治体も、いざというときの避難先を考えた方がよいかもわからない。

原発事故から 8 年たった今年になって大川原地区の避難指示が解除された。そこで大熊町は大川原地区を整備し、復興拠点として同地区に役場を開設した。原発に近い JR 線沿いは帰還困難区域のため、JR 線の野野原駅周辺とそこに接続する地域を「特定復興再生拠点区域」として除染している段階である。町の復旧・復興として、災害公営住宅や賃貸住宅の建設、イチゴ栽培施設の稼働、試験田による稲の試験栽培などのお話を聞いた。最後に元の町民への帰還意向アンケート調査の結果を聞いたが、昨年(平成 30 年)の調査でも「戻りたいと考えている」12.5%に対し、「戻らないと決めている」59.3%となっていて、全町民の帰還という道筋は大変厳しいものとなっている。特に平成 25 年 1 月の第 4 回調査から平成 25 年 10 月の第 5 回調査へと「戻らないと決めている」が 4 割から 6 割に急激に増えていることから、被災して避難してから 3 年くらいが帰還意向を左右する時期と言えるだろう。また、汚染が大きい帰還困難地域では帰りたくても帰れない状況が続き、最終的に帰還を諦める人も多くなるだろう。

2. 大熊町の視察

富岡町と接する地域から中間貯蔵施設のある帰還困難地域、特定復興再生拠点区域、大川原地区と視察を行った。富岡町と接する地域は田んぼが広がるが、荒れはてたままであった。この光景は帰還困難区域でも続き、建物は無人であった。大川原地区の建設されたばかりの公営住宅を見ると、ホッとした安心感を思った。ただ、公営住宅等があるのは全町の中でもわずかな区域であり戻ってきている住民も少ない。帰還意向調査でも「戻りたいと考えている」の回答者も高齢者が多いということでは、将来の町の人口構成も極端に高齢者ばかりとなり、町の将来の発展は見えない。現在のところは商業施設もあまりなく、買い物は隣接の富岡町に依存せざるを得ない。町の産業もイチゴ栽培施設だけである。事故を起こした原発立地自治体には移転または新設する企業も少ないと思われる。若い人の雇用機会は少ないのではないか。



現在の町の財政も補助金頼みのようだが、補助金無しで財政的に町が自立できるかは、視察では見えてこなかった。町の将来は大変厳しいものと思えざるを得ない。

【木戸川漁協】

鮭のやな場とふ化場の視察

台風により破壊された後のやな場の設置場所を見ながら、東日本大震災前後の状況のお話を聞いた。大震災の津波の時は、川の水があふれたため急ぎ逃げたとのことだった。また、大震災前は7~10万匹も鮭が捕れたが、原発事故で立ち入ることができなかつたため、鮭の放流もできなかった。立ち入ることができた2015年から鮭の捕獲を再開し、毎年約6,000~8,000匹の鮭が捕れた。ところが、今年の台風でやな場が破壊されたため、250匹の鮭しか捕れなかつた。そこで、来年以降に向けて、今年の鮭は出荷せずにふ化に努めているという話だった。

ふ化場と、捕獲した生きている鮭も見せていただいた。ふ化場の奥には受精したばかりの鮭の卵がわすが1ケースのみ保管されていたが、それは来年以降に希望をつなげる赤い宝石のように見えた。何度も被災しながらも、前を向いて頑張り続ける木戸川漁協には大いに感心した。また、漁協には若い人も加わっていて、将来に明るい光を感じた。

【参加者:女性 50代】

視察研修を通じて学んだこと、感じたこと、伝えたいことなど

【富岡町】

- ・ 除染廃棄物の中間貯蔵施設については大まかに知っていたが、発生場所などで分類し、直接、最終処分として埋め立てるものがあることを今回知った。全体としては効率が良いと思うが、中間貯蔵施設とその後の処理までを合わせた説明がなかつたので、すっきりしなかつた。
- ・ フレコンパックは、6号線などから見えるところではかなり減っていた。これは住民の帰還に伴うものと思うが、その反面、海岸部の堤防や道路、道路を立体化する橋などのコンクリート建造物が増えている。宮城県、岩手県も同様に増えていることではあるが、数十年後のメンテナンスなどを考えると、よいこととは思えない。

【大熊町】

- ・ 「背丈ほどに育った雑草に隠れて点在する乗用車」が印象に残った。そうなる状況は考えれば理解できるが、実物を見ると、その状況と年月に異常さを痛感する。
- ・ 木材を使った素敵な町役場や周辺の街づくりが進んでおり、よく考えられていると思う一方で、町の財源のほとんどが交付金(復興予算など)であり、今後それが減り無くなった場合の維持はどうするのか心配になる。人口が増えるよう農業などの産業が発展することを願う。



【木戸川漁協】

- ・ 木戸川のサケや釣り場が、他と比べ幾つもの特徴があることを今回知った。来年以降サケの遡上数がふえたら、宣伝のお手伝いなどをできる

【参加者:男性 60 代】

視察研修を通じて学んだこと、感じたこと、伝えたいことなど

【富岡町】

(1)町内

特に印象的だったのは、JR の線路・駅舎が来春再開に向けてかなり整備されてきている点です。再開したら乗車します。

(2)ふたばいんふお

最新情報を発信する場として、こういう形もあるのかと感心しました。情報発信に至るまでに、情報収集やそのまとめ方等相当の努力が必要のようです。

(3)リプルンふくしま

放射能濃度がある値以下の放射性廃棄物を埋め立て処分していることを、全く知りませんでした。来てみないと分からないものです。

受け入れ基準は「放射能」の「ベクレル」単位なのに、処分場の受け入れ計測器は放射線量の「シーベルト」単位でした。理由を聞いたところ、ベクレルをシーベルトに換算していると、信じられない回答でした。それ以上の質問はしませんでした。受け入れ基準の 6 割くらいの測定値がでたら搬入物を詳細に調べると説明されていたので、なるほどと思いました。基本的に、放射能から放射線量への換算はできません。放射性物質が何で、どんな遮蔽がされ、測定器までの距離などなどなどを一つ一つ仮定して初めて換算ができるので、ある仮定の基での換算係数を使っているのだと思います。受け入れ基準に安全率を見込んで実際の搬入物が受け入れ基準を超えないようにしているようです。大量に運び込まれる搬入物に対しては現実的な対応なのかもしれません。

(4)東電廃炉資料館

時間が短すぎて半分も見られませんでした。損害賠償に対する東電のこれまでの態度から、出費を抑えるのが第一で被災者に寄り添うのは二の次という印象を持っていました。なので、シアターホール説明での反省の弁や事故過程説明での反省の弁がとても奇異に感じられ、聞いていられなくなりました。

メルトダウンを起こした原子炉建屋から使用済み核燃料を取出すことさえこれからであり(3 号機は新燃料のみ取出し)、メルトダウンがどのような状態になっているかだれも分からない現状では、廃炉に対する具体的な進展など、ほとんど展示できていませんでした。数年後あるいは十数年後には進展していることを期待しつつ、定期的に訪れてみようと思います。



【大熊町】

2. 大熊町

(1) 町内

中間貯蔵施設の大きさを、傍を通過して実感しました。線量の高い帰還困難区域が町の半分以上を占めている大熊町が、大川原復興拠点や特定復興再生拠点を足掛かりとしつつあるとはいえ、今後どのように進展していくのか、忘れずに見つめていこうと思います。

【木戸川漁協】

3. 檜葉町

(1) 木戸川漁協

東日本大震災のつなみと原発事故から立ち直り始めた矢先に、今年の台風 19 号により大きな被害を受けました。今後数年は大変でしょうが、漁協の方は前を向いていました。声援を送ります。

【参加者:男性 50 代】

視察研修を通じて学んだこと、感じたこと、伝えたいことなど

本当は復興に向けた明るい面にも目を向けるべきとは思っているものの、どうしても暗いことばかり感じ取ってしまう。原発事故に対する申し訳なさや後ろめたさが先に立ってしまい、福島に対して私は紋切り型で接しているのではないだろうか。

【富岡町】

ふたばいんぷおで見たドライブレコーダーの動画の数々。実景として見た夜ノ森地区。県内各地で避難指示が解除される中、復興から取り残されている風景を見た。

車窓から見たフレコンバッグの黒い山。以前は「こうした風景に慣れてしまいたくない」と思ったものだが、いつの間にか抵抗感を失っている自分に気づく。フレコンバッグが風雪にさらされて真新しくはなくなり、景色にとけこんでいるようにすら感じてしまった。

埋立処分場はダムのような施設で、特定廃棄物がもうすぐ一杯になってしまいそうな印象を受けた。安全対策に万全を期すというけれど、遮水シートが薄っぺらく感じたし、探知システムがこの先何年保つのかよく分からず、なんだか心細い。

東電は地震・津波の被害者だが、原発事故の加害者のはず。その加害者としての当事者意識が、廃炉資料館から感じ取れなかった。施設自体がアリバイ工作のように受け取られた。なぜだろう。事故の責任を口にしながら脱原発に転じないからか。

【大熊町】



役場で伺った新庁舎のエピソード。開庁式に首相が訪れ、セキュリティ対策でドタバタしたとのこと。「はた迷惑な政府」を象徴しているよう。

町内をバスで見て回った。線量計が常に鳴っていたように記憶している。バスから一度も降りることがなかったのは、そのせいだろう。

国道 6 号線沿いの住宅にバリケードが設置されているところは、今も変わっていない。

6 号線沿いの右手は中間貯蔵施設の予定地。途中で左折したけれど、予定地はまだまだ先までつづいている。敷地の広大さから、原発処理が気の遠くなるような工程であることを痛感し、また既成事実が粛々と積み上げられているようにも感じた。

【木戸川漁協】

3 年前に盛岡で鮭の遡上を見たことがある。木戸川でも同じような光景が見られるのかとワクワクしていただに、台風被害を残念に思う。漁協の方々の落胆はどれほどのものか。

見せていただいた採卵場の施設で、稼働していたのは 1 本だけ。最盛期と現状との落差をまざまざ見せつけられた。

ただ、それを「落差」と見るのか、たとえわずかでも「希望」ととらえるのか。漁協の方々は「希望」ととらえているに違いない。

【参加者:男性 50 代】

視察研修を通じて学んだこと、感じたこと、伝えたいことなど

【富岡町】

- ・ ふたばインフォを訪問し、相双ボランティア代表の平山氏より、富岡町の歴史、東日本大震災前後/原発事故後の街や人の変化について事務所、市内視察で説明いただいた。
- ・ 浜通りの中央に位置し、江戸時代に幕府直轄領であったことから現代も行政機関が集積。産業がない過疎の町は、原発及び自動車産業等誘致があり、人口増加自治体であった。
- ・ 原発事故で、30km 圏内 7.4 万人の住民が、避難指示で西進するが避難所が埋まっていたため徐々に拡散していった。
- ・ 富岡町は 2017 年(H29 年)4 月の一部地域を除いた避難指示解除となったが、現在は人口 1.6 万人中 1000 人ほどが戻っている状況。今後も劇的に増えるとは考えられない。
- ・ すでに避難先で就学/就職、または自宅再建など生活基盤ができている。また元の自宅も解体費用が掛かるため再建しようと思っていないと考えられる。
- ・ 避難指示が出た 30km 圏内を都市部に置き換えた場合、神奈川や東京は面積で 50%強を占め、横浜から見て県央にまで及ぶと考えるとその大きさに驚く。一方で人口や道路状況が異なるとはいえ、大事故のリスクをどこまで想定していたか疑わしく、安全神話の喧伝に隠さ

れたエネルギー政策の責任の薄さを思い知るに至った。首都圏の生活のため遠い地域にリスクを負わせていた状況、一方で過疎の町が自立運営できた相互依存の現実、長年当たり前と思い、自身も情報を信じリスクを考えていなかったものと振り返る機会となった。

- ・ リプルンふくしまの見学で、除染等で集積された汚染物質の処理及び埋め立ての説明を理解した。最終埋め立てとなる特定廃棄物の定義、実際の埋め立て場を理解できたが、机上算定量が期限内に計画通り処理終了となるのか、一方で現在の未除染範囲、今後の解体等で発生する圧倒的に多い中間貯蔵対象となる廃棄物の量や長い期間を考えると、いったん取り置きで処理はグレイ定義のままが、今の自身の理解である。原発施設解体だけでなく、地元自治体に残した大きな処理課題に対する、今後の処理方針、時期、内容は、誰も正解が分からないと想像できるがその疑問解消には至らなかった。

【大熊町】

- ・ 大熊新役場にて、おおくままちづくり公社の高田氏より、大熊町の概要、東日本大震災及び原発事故、それに伴う全町民避難と解除された現状について説明を受け、帰還困難地域希望を含む町内をバス巡回し、車中から説明を受けた。
- ・ 温暖な気候で果物等一次産業を中心に生活していた地域に、1971 年イチエフの稼働により人口増加となり、地域の雇用政策上重要な施設であったことは富岡町と同じである。原発事故後に全町民避難となった後、8 年たった今年ようやく一部避難解除となった点は、町内に施設がある近さゆえである。新役場からもイチエフを近距離に感じて見ることができる。
- ・ 帰還困難区域の多くが中間貯蔵施設予定地へと変わり、以前より国道 6 号線通行時にバリケードを見てきたが、それが解除される日が遠くなったことを目の当たりにし、直接説明を聞くと、さらにやりきれない思いを持った。居住者の中にも意見が分かれ葛藤がある点は、話を聞いて初めて知る心情であった。最低 30 年という長さは世代を超えた超長期である。
- ・ 住民帰還のためにも、まずは生活基盤の確立である。農業再生に取り組み紹介を受けたが、漁業再開とともに食物として摂取するものなので、風評被害等の影響もあり時間がかかるものと思われるが、自ら手にし食すなどの行動で応援していきたい。
- ・ 住民票と実際の居住者数に乖離があるとの説明があった。様々な考え、感情や条件があつての選択とは思われるが、労働年齢層が家族の生活という理由もあり、町への戻りが少ない事情は理解できる。高齢世帯だけでは長い目を見てコミュニティや町として大いに問題だが、志ある新しい住民の流入はうれしい限りであり、次世代の街づくりは以前に戻るものではなく、新たに描いていくものかもしれないと強く感じた。

【木戸川漁協】

- ・ 木戸川漁業協同組合の鈴木氏に、築場、孵化場で説明を受ける。
- ・ 鮭は回遊後、2～6 年かけて生まれ育った川を遡上するといわれている。原発事故の避難解除後、2015 年に孵化を再開し、最初の 4 年回遊魚が戻ってくると期待された 2019 年は、直



前の台風 19 号等の大雨の影響のためか、回帰がほとんど観測されず、訪問日も朝から 4 匹捕獲したのみと伺った。大雨で築場、土手等が大きく破壊されたままであった。

- ・ 今年是全国的に大幅に少ないとのことで、訪問後時間が経過した 11 月下旬でも変化は見られないようである。孵化により放流しなければ回帰を望めず、他の地域からも入手することもできず、5 年回遊等で来年に期待する部分はあるが、漁協としての影響は計り知れない。
- ・ 東日本大震災は海岸近くではあるが、津波の被害は他地域ほど大きくなかったが、避難の影響のほうが大きく、数年単位の産業にとってのダメージの深さを初めて知った。自然が相手であり、今年度の影響を引きずらずに早く漁業として上向きになることを期待しつつ、個人としては今後も気にかけて応援していきたい。

【参加者:女性 40 代】

視察研修を通じて学んだこと、感じたこと、伝えたいことなど

【富岡町】

◆ふたばいんふお

前回の視察便で富岡町を訪問してから時間がたち、解体されている家も増えてきていることや、人のすがたが増えてきている様子がわかりました。

震災以前の住民さん、世帯の数を実際の数で教えてもらえると、考えることがたくさんあります。(震災前の住民は 1 万 6 千、今は 1000 人くらい。世帯数は 8000 世帯で、うち 3000 が解体済み)

住民の数を帰還者数と呼ばなくなり、町村内居住者数と呼ぶようになったことも、改めて考えるとその通りと思うとともに、こちらもいろいろと考えさせられました。

現在アパートの建設ラッシュで、年に 30 棟くらいたっているのでは？と教えていただきました。

本や資料をたくさんそろえてくださっているのでも、自分たちが気になることを見つけながら考えを深めていくことができたり、一緒に行った方ともその資料や模型などをきっかけに話をしていくことができたので、とてもよかったです。

映像のアーカイブを平山さんに見せていただけたのも、大変学びになりました。

◆リプルンふくしま、最終処分場

「最終処分場」の言葉はよく聞くものの、実際にその現場にいった見せていただいた大変貴重な機会でした。処分にかかわる作業について、コンテンツが大変わかりやすく整備されているのに驚きました。事前に学んでから現地に行くことで、理解を深められたように思います。復興庁がなくなる予定まであと少し、放射性廃棄物の処分にはまだまだその先までかかるため、その年数の差はやはり気になりますが、真摯に作業を進めてくださる姿には頭が下がりました。

◆廃炉資料館

廃炉資料館になる以前の改修中のときにお邪魔したことがありました。

その時から大きく様変わりした、立派な展示スペースに驚きました。

仕事でコンテンツ制作をすることもあるのですが、ものすごくレベルの高い空間演出だと思います。

廃炉や原子力政策に関しては、人により様々な意見があるため、建設的な話し合いにはなりにくいというのが個人的な見解で、研修という形で行くにはすこしハードルがあるのかもしれないと感じました。

(個人の不満を、ほかの参加者にぶつけてしまう方がいらっしゃいましたので)

時間が短かったので、次回どこかで自分ひとりで行けるタイミングを見つけて行ってみようと思います。

◆富岡ホテル

富岡町が日中通行解除になってすぐ、南相馬にボランティアに行く前になんとか立ち寄った場所でした。その時の姿から想像がつかない立派な建物で、窓からは美しい朝日が見えて、自然の怖さと恵みの両方を感じていました。

お部屋の清潔さや快適さもそうですが、ごはんの種類が多さが良かったです。いま歯の矯正中で食べるものを選ぶので、バイキングで自分で選ぶことが個人的にはとても助かりました。

ご挨拶に来てくださった支配人さんが、私と同じ年なので、勝手に応援したいと思います。

【大熊町】**◆大熊町役場**

大熊町役場の 1 階でご説明いただいたからの、バスでのご案内でした。役場の 1 階でプレゼンしてもらった、という体験が初めてで、これも大熊町らしさなのかしら、とったりしました。

バスの中から大熊の町をぐるりと回ってみていくと、いつも通っている国道 6 号も見え方が変わります。グリーンベルトを作る用地になっているところを教えていただいたり、これからどんどんまた見た目が変わっていくのだなと感じました。

災害公営住宅の増設や、高齢者施設の建設など、これから人が戻ってくるための対策が着々と進んでいる一方、地域の指定を変えて元の人口の多いエリアの除染が始まる等、先がわからない中での歩みを応援していきたいと思いました。

新しい産業としてイチゴ工場が稼働し始めていると伺いました。今回は工場見学はしませんでした。富岡町まで来たらそこから大熊町役場まで無料バスで来ることができると教えていただいたので、工場の見学をしたり、どこかで機会があれば大熊のイチゴを購入したいと思います。

そして何年かかるかわかりませんが、梨の復活を待ちたいです。



【木戸川漁協】

◆木戸川漁協

今回研修便で伺って一番印象に残りました。

鮭がだいたい平均 4 年で戻ってくることに、戻ってくる鮭は 0.5%程度であること、2016 年に 137 万匹を放流したので今年還ってくる鮭を考えて 1 日だけお祭りを復活させる予定だったこと。その 10/20 のお祭りが台風 19 号で中止、さらにそのあとの豪雨で鮭を取るためのやな場が壊れ水の濁りや川の土手の崩れ等により、鮭がほとんど上ってきていないこと。

鮭は 10～11 月に卵を取って、積算の加温で 1000℃(1 日平均 10℃)で放流をするため 2 月下旬～が放流時期で、2011 年にも半分ほどは放流済みだったが、避難せざるを得ず、戻ってきた時には稚魚が死んでしまっていたこと。

どれもつらい体験なのに、鈴木さんは「慣れちゃったと言ったらあれですが、コツコツやればいいのか」と笑って言われていて、鮭に対する強い思いを感じました。無理しないでほしいと思いますが、この強い思いがいつか報われると一緒に信じたいと思います。

来年のカレンダーをいただいたので、家の壁に貼って、来年の鮭祭の無事開催と豊漁を祈りたいと思います。

【参加者:男性 60 代】

視察研修を通じて学んだこと、感じたこと、伝えたいことなど

ktop 参加 5 回目でしたが、いつも自身では体験できない機会を設けていただき感謝します。私の地元・横須賀には米原子力艦が年間通して常駐しているので、自身の問題として日々勉強しています。★自宅は原子力艦停泊地から 2 キロです。

【富岡町】

11/16(土)

【富岡町「ふたばいんふお」】

平山さん(見学後の夕方のお話も含め)

- ・ 死亡届が出されても実際には行方不明の人もまだいること。
- ・ 常磐線不通区間 3 駅が来春開通するが、そこはなお「帰還困難区域」であること。
- ・ ドラレコで見せてもらった、昭和 9 年の「夜ノ森」桜まつり。富岡駅前の震災直後の状況。
- ・ 「ふたばいんふお」の活動

双葉郡の各市町村の現状を、総合的にまとめていることが素晴らしい。

(帰りのバスで、頂いたパンフを読んで、活動主旨がわかりました)

★平山さん、20 年ほど東京で暮らし、実家がビジネスホテルをやっていたこともあり 2009 年に戻る。



★ふたばいんふおは 1F から 9 キロ。

★30 キロ(20?)圏の 7 万 4 千人が避難

★現在の富岡町の居住者約 1100 人(13,000 人中)

★行方不明の人は 6 名、死亡届を出したら「不明」から「死者」に変わる。

★町内、8000 軒中、解体が 3000 軒。

★以前は小・中各 2 校で 1400 人→現在 17 人(小・中 1 校ずつに)、半分为「新住人」で展望も感じる。

★富岡周辺は江戸時代は相馬藩、平藩の間の幕府直轄地。両藩がケンカしないように目を光らす。

町内視察:

富岡港での津波高さの体感。現地では、こんなところまで！と感じたが、遠望するときほど危機的に感じない事。

初めて地上を歩いた、夜ノ森の桜、樹齢 100 年以上。

(翌日の見学で、常磐線特急「ひたち」が季節には徐行したということ)

【リプルンふくしま見学】

特定廃棄物の最終埋め立て地、こんな施設があるとは知らなかった。

しかし、考えてみれば事故前に原発で汚染した物質は同じように処理してたのではないか？

施設モニポスの空間線量 $0.2 \mu\text{Sv}$ 以上の中に終日作業していることが問題ないとしている感覚に驚いた。

★reproduce を リプルン とネーミング。

★2017 年 11 月開始

★面積 4.2 ヘクタール 埋め立て容量 96 万立方メートル 6 年間で収容処理完了のみ込み。

★8 千ベクレル以上の指定廃棄物 10 万ベクレル以下のものを処理 (家財など)

★10 万ベクレル/kg とは = ドラム缶表面線量率 $23 \mu\text{Sv/h}$ 。(配布パンフ P26) 高い!

★旧来の産廃場を転用

★(産廃場の?)搬入路がならば町なので反対運動もあった(平山氏談)。

【東京電力廃炉資料館見学】

見学冒頭の立派な映像に辟易した(何も知らない人に伝えられているのだろうか)

- ・ 展示では、格納容器などの隔壁の厚さがよく分かった。
- ・ 作業者のマスクをつけて体感できた。

最後の、コーナーの「謝罪反省」の言葉が空虚に聞こえるのはなぜか？

→現在当時の責任者が裁判で主張していることと解離してるからと思う。



反省を踏まえ、「原子力事業者として遂行する」という最後のコメント

→ま、原発はやりませんとは表明できなだろうから「原子力事業者として廃炉をやりきる」と解釈した。

【番外編】

ホテル支配人わたなべさんのお話

以前から知己の、宿泊業経験のない 8 人で経営中。

復興のシンボルといわれるが、まず何か一緒にできることを考えただけ。

【大熊町】

11/17(日)

【大熊町役場】

一般社団法人おおくままちづくり公社 高田事務局長

座学:大熊町に帰れない町外居住者への対策をテーマにしていること。

見学:住めるところ・住めないところを跨って走るバスで、「境界・分断」の矛盾を体感。

中間処理場の広大さ。

伝えたいこと:

帰還政策が不可能な中で、自治体ができる対策は何かを真剣に現実的に考えていること。

★全町避難、会津若松市へ。

判断ポイント①小中学校生徒の継続②住民 11,000 人を受け入れられる規模③医療機関の備え④距離

★19 年 4 月 10 日一部解除されたばかり。(富岡の 2 年後)

★解除されたのは、以前の住民居住地の 3.5%。96%以上の人に住んでいた中心地は帰還困難区域のまま

→「特別復興再生拠点」が予定。線引きは変わらない。

★町独自でも、モニタリングを年 2 回実施。

★生まれてずっと大熊。震災後いまは喜多方に住む。ここには単身赴任。

(役所や公社の人も、町内に単身赴任や 現在の居住地から車で通う人もいる)

★自宅が中間処理場になった(Map の E あたり)。きれいに植林し住まいが「なかった」ことになる。

★自分はいま 55 歳。当時は家族ごと会津に避難、高校生の子供は面接だけで県内高校に行けた。

★資料の「被害状況」は解除後に調査したもの、調査は始まったばかりで詳細は不明。

★公営住宅 50 軒→満員→40 軒増設計画。

★現在の年度予算 30JR0 億！ほとんどは復興予算



★中間貯蔵施設(16 平方 k) = 4 キロ四方(大熊 11 + 双葉 5)

→横須賀市の 16%

1400 万立方メートル収容可能→現在 1/3 済。毎年 600 万搬入予定。

広大と感じたが、前の日の「リプルン」の収容可能容量(96 万立方メートル)に比べ少ないと思った。平置きと、積み置きのちがいだろうか。

★「特別復興再生拠点」

JR 大野駅を中心に、帰還困難区域のうち 8.6 km²を、2020 年春に。

★町内の営農

米は 1 年で結果が出る。問題なし

果樹は長くかかる、梨は 100 年。イチゴを試作→夏に出荷、すっぱかった。

★廃炉作業

スリーマイルのデブリは 40 年たってもまだ、砂漠に隔離中。どうなる？

★大川原地区の復興拠点

公営住宅:311 被災者向け

賃貸住宅:被災者以外

老人ホームも。(計画中?)

★帰還の住民意向

H25 年(第 5 回)2013 年 = 3 年目でガクッと減る

★避難先でのつながり、帰れない人への対応

町民自らが現在の居住先で行う祭りなど。自治体主導では続かない。

避難先で安定した生活が続けられるような行政サービス。

【木戸川漁協】

【檜葉町木戸川漁協】の見学とお話(鈴木けんたろうさん 孵化場長)

震災後五年間中断して再開し、今年 10 月の初イベントも台風で中止。

来年は、10 年目に、なんとかしようという気持ちに感銘。

・通常は秋に遡上、受精・稚魚育成 3 月に放流。

稚魚 1500 万尾放流、2011 年は 300 万尾放流後、震災で断絶。以降 5 年放流不可。

伝えたいこと

彼が言っていた、5 年間稚魚放流できない間にも、遡上が続いた自然の力。

★10 月から 3 月にかけて育て放流。5 センチぐらいになっている。

★放流したあと 1 カ月ぐらいは川にいる。1500 万尾のうち戻ってくるのは 0.5%。

★ことしは、きわめて少ない。全国的傾向。



【番外編】

竜田駅

コースの中で、継続ボラの方へのご配慮よかったですね。

漫画「イチエフ」の作者のネーミング場所でもあり、私も現地で実感できました。ありがとう。

以上です。

★福島の新聞報道

福島民報・福島民友紙とも

「一時帰宅者と個人積算線量」を報道している事。

富岡・双葉・大熊の各町が対象。→小さなベタ記事ですが、おそらく、必須の基礎情報なのでしょう。

【参加者:女性 50 代】

視察研修を通じて学んだこと、感じたこと、伝えたいことなど

【富岡町】

6月の勉強会講師、鈴木亮氏のお話を聴いた時から感じていた富岡町の印象は、2017年4月に居住制限区域と避難指示解除準備区域が解除されてから約2年半、復興へ向けて日々変化し続けている町というものでした。実際に町の中を回ってみると、新しく建てられたアパートがあちこちに見られ、入居者の生活感が感じられました。しかし一方ではまだ震災当時のままの建物も多く残っている事や、桜が有名な「夜ノ森」には手入れがあまりされていない木々は、まだまだ道のりは長いように思いました。

「リプルンふくしま」では特定廃棄物埋立処分事業の説明自体はとても分かりやすかったのですが、埋立エリアの進捗状況を見る限り、本当に納まりきるのかと疑問に感じました。

「東京電力廃炉資料館」では時間の関係で大まかな説明のみで少し残念に思いましたが、最後に廃炉現場の作業員の最新マスクを体験できたのが唯一の収穫でしょうか。

【大熊町】

今年4月10日に一部地域の避難指示が解除された大熊町には、真新しい町役場と真新しい職員施設などの建物が印象的な一方で、中間貯蔵施設のエリアは想像していたよりも広く感じました。「廃炉作業の最前線」と説明された通り、東京電力関連の施設も多かったように思います

【木戸川漁協】



当初、木戸川漁協を訪れる時は鮭やイクラをお土産にできるのでは？と大いに期待していましたが、今年の台風 19 号の影響で大きな被害を受けられ販売できない状況との事。東日本大震災と今回の台風で 2 度目の被災にあわれ、心よりお見舞い申し上げます。特に今年は 2016 年の春に 4 年ぶりに放流した稚魚が戻って来るとの期待が大きかっただけに本当に残念でなりません。ご案内頂いた、鈴木孵化場長のお話からもその悔しさが伝わり、心が痛みました。しかし来年放流する稚魚を少しでも多く確保する為にと、日々奮闘されている若い職員の姿も目にすることができ、微力ながらも応援していきたいと考えています。

【参加者:男性 70 代以上】

視察研修を通じて学んだこと、感じたこと、伝えたいことなど

【富岡町】

1. 富岡町視察研修で、知ったこと、学んだこと、感じたこと、伝えたいこと

1-1 ふたばいんふおにて

12:00、国道 6 号線沿いの「まちの駅 ふたばいんふお」に平山勉さんに迎えられて到着した。平山さんは相双ボランティア代表として、また双葉郡未来会議の事務局として双葉郡 8 町村の住民とそこに関わる人々の情報交換、諸種のミーティング、イベント、分科会などの開催の場を提供している。併設の Café と併せ、相双の被災地を訪れる人々の文字どおり「まちの駅」、拠点となっているふたばいんふおには、平山さんの書いた「富岡は負けん！」の横断幕が掲げられ、双葉郡 8 町村の写真や関係図書、物産などが展示されている。

平山さんは富岡町の出身で、2009 年に故郷に U ターンして実家のホテル“ひさご”を継いだ。自らも被災者となった平山さんは、相双現地ボランティアを主宰し、また双葉未来会議のメンバーとともに、双葉郡復興にむけた活動を精力的に継続されているが、震災に遭ってからの心境をブログで次のように語っている。

「震災直後のあのどうしようもない無力感がズシンと重く引っかかかっていてね…。何かをやりたくてもやりようがない状況だったけど、何もやらないのではなく、ちょっとずつでもいいからやれることを見つけて広げたかった。メディアの発信を待つだけでなく、住民目線で感じたことや見たことを発信するべきだと思いました」。

平山さんは 2011 年 8 月、「富岡は負けん！」と書いた横断幕を国道 6 号沿いの歩道橋に掲げた。ライブカメラの映像で伝えられたこのメッセージは各地に避難した富岡町のみならず相双の人々の大きな励みとなり、復興への意志を結集させるに至った。

今、双葉未来会議のメンバーは約 250 名を数え、平山さんはじめメンバーの発想と行動力とエネルギーは、地元民が地元の立場に立って相双の復興を考え、実行してゆく上で強い求心力となってゆくことと思った。

1-2 富岡町の現在

富岡町作成の「復興状況と町の現状」、双葉郡未来会議発行の資料「ふたばいんぷお No.3、2019」などの資料により、富岡町の歴史と双葉郡 8 町村の被災状況、人口の推移、避難者・帰還者の状況、除染、生活再建、産業再生、教育、医療、地域交通などの課題、帰還困難区域内での放射性物質を含む廃棄物の中間処分状況・最終処分状況などについて説明を受けた。

1-3 富岡町内視察

12:30 から、平山さんの案内のもとに、バスで富岡駅、観陽亭、富岡漁港、夜ノ森地区他、富岡町内各所を視察した。

(富岡の牛)

特定復興再生拠点予定地内にある牧場の柵が開いていた。平山さんは畜主の坂本勝利さんが牛の餌やりや世話のために来ているようだと話していた。福島第 1 原発の事故により全町避難した富岡町でも多数の家畜やペットが取り残された。多くの牛が牛舎の中で餓死したが、帰還困難区域の野に放たれた牛も多い。国は高い放射線量を浴びたこれらの牛を薬殺処分している。坂本さんや松村直登さんたち畜主は、高い放射線量を浴びた牛であっても薬殺処分するに忍びず、国の方針を拒み、富岡町に通って餌やりして飼いつけてきた。相双では今もなお 500 頭以上の牛が飼いつけられているが、これらの牛が天寿を全うし、あるいは放射線医療の研究などに有効に生かされ、医学の発展に貢献してくれることを願いたい。

(夜ノ森にて)

夜ノ森地区の帰還困難区域近くを視察した。線量計は $0.46 \mu\text{Sv}/\text{h}$ を示していた。元のスーパーマーケットは全町避難後、略奪にあい、破壊された壁や窓が痛々しい。民家や重機などの盗難は今なお頻発しているという。嫌悪すべき所業がそんなに横行するのが悲しい。

水田地帯に入ると、有志のふるさと生産組合が 2013(平成 25)年度からコメの実証栽培を開始した場所に出た。放射線量も全量全袋検量で基準をパスし、2014 年度から出荷している。

浜街道は線量が $0.115 \mu\text{Sv}/\text{h}$ 程度であった。津波で破壊されたホテル海陽亭跡地から富岡漁港を望んだ後、新設の防潮堤を経て、2019 年 5 月に再開された富岡漁港を訪れた。富岡港を母港とする漁船 5 隻のうち 3 隻が停まっていた。ヒラメなども獲れるが、現在も調査操業の段階で、水揚げは冷蔵設備のあるいわき港か請戸港になるとのことであった。

(特定廃棄物の処分、および除染廃棄物の中間処理について)

以前あった震災の廃棄物の減容化施設の跡地を見ながら、14:00、リプルンふくしまに到着。

リプルンふくしまは、放射性物資に汚染された廃棄物进行处理するための施設を一般の人に分かり易く説明する広報施設である。

埋立て処分場はリプルンから 2km ほどの山地にある既存の管理型処分場を環境省が国有化したもの。処分場のゲート前の線量は $0.661 \mu\text{Sv}/\text{h}$ 、処分場の展望台で $0.212 \mu\text{Sv}/\text{h}$ であった。当日は土曜日で稼働していなかったが、処分場は双葉郡 8 町村の生活ごみ(約 2.7 万 m^3)や、汚染廃棄物対策地域等で発生したがれきや住民が一時的に帰宅した際に発生する片付けごみな

ど(約 44.5 万 m^3)、福島県内の指定廃棄物など(約 18.2 万 m^3)で、震災で発生した廃棄物で 100,000Bq 以下の濃度の廃棄物はセメント固型化して埋め立て処分している。埋立容量は約 96 万 m^3 で十分な余裕をもち、また、放射性セシウムが浸出しないようセシウム濃度の測定など何重もの安全対策が講じられているとのことであった。

一方、県内 30 市町村の各地に仮置きされていたフレコンバッグ入りの除染廃棄物は、2019 年 10 月までに総量約 1400 万 m^3 のうち約 600 万 m^3 、約 45%程度が帰還困難区域内の中間貯蔵施設に移送されたと説明があった。別の資料によると、中間処理施設や最終処分施設など帰還困難区域内の処分用地面積は約 88%が取得済みで、登記記録されている地権者数 2360 人のうち約 83%の地権者について取得済みとのことである。(「ふたばいんふお No.3, 2019」による。)

(15:20～ 東京電力廃炉資料館にて)

廃炉資料館は原発事故の事実と廃炉事業の現状等を相双の住民のみならず県内外の人々に発信するために、東京電力(以下、「東電」という。)広報施設であった旧エネルギー館に設置したものである。映像で事故発生当時の状況を再現し、反省点を分析するとともに、デブリ取り出し方法の検討など廃炉へ向けての準備、廃炉作業員の放射線対策などが映像や装備品の現物で展示されていた。

展示には東電の反省と謝罪の念が込められていると小生は受け止めて廃炉資料館の職員の説明を聞いた。廃炉は東電の責任と費用負担で、40 年とも言われる長期にわたって行われ、その巨額の負担に耐える事業者としての体質の確立も求められる。廃炉の前に、増加し続ける低濃度汚染水の処理も喫緊の課題である。

一方、国や福島県および市町村の協調の下に、相双地域の復興・再生のための災害復興住宅の建設などの諸事業が並行して行われてきたが、特定復興再生拠点などの除染、整備、各地の除染廃棄物の中間貯蔵施設への処分など負担も巨額になる。国は既に 2011(平成 23)年度以降 2016(平成 28)年度までに、除染事業だけでも 2 兆 6,400 億円以上の国費を投入している。東日本大震災と原発事故は多くの犠牲と損害、悲劇と失意をもたらしたが、災害に強い国土の構築、コンパクトで生活し易い共同体の建設などで被災者の生活再建に役立つことを期待する。

16:00 富岡駅に立ち寄り、駅前の整備状況やキオスク、列車および代行バスのダイヤを確認したのち、16:30 ふたばいんふおに到着し、平山さんのお話と富岡町のかつての姿、被災と避難の状況などの映像を見せていただき、質疑応答の後、18:30 宿舎・富岡ホテルに入った。

17 日 06:30 富岡駅を見下ろす丘に登った。太平洋の長い水平線、海岸には富岡漁港や更地の目立つ宅地と富岡駅。スギやイチョウの大木の立つ背後の丘には新築の民家・アパート・マンションが建っていた。富岡駅に寄り、サクラステーション KINONE で濱鶏ラーメンとチーズの味噌漬けを買って、ホテルに戻った。

【大熊町】

2-1 一般社団法人おおくままちづくり公社にて

17 日(日)09:00 2019(令和元)年 5 月 7 日、大川原地区の新庁舎に安倍首相を迎えて開庁した大熊町役場は土曜日で閉庁日であったが、一般社団法人おおくままちづくり公社の高田事務局長に迎えられ、庁舎内で大熊町の現状と課題について説明をいただいた。

(おおくままちづくり公社の業務)

大熊町は、新しい大熊町に帰還しないと決めている町民にも、「ふるさと大熊」への思いを持ち続けてもらい、町民が帰町したいと思う時に、帰町できる環境、町民が安心して戻ってこれる環境づくりを整備しようとしている。おおくままちづくり公社は、町の復興計画と連携し、町民が所有している不動産の有効活用のための窓口業務をはじめ、帰還した町民の地域コミュニティの形成支援や公共施設の管理運営、新たな事業の育成など、官民連携等を図りながら町と協働し、行政をサポートしていくことを目的に、平成 29 年 10 月 17 日に設立された。

(大熊町の現状)

大熊町は、2011 年 3 月 11 日時点の大熊町の人口は 11,505 人であったが、3 月 12 日の 05:44、国の 10 km 圏内の避難指示を受けて、町長は全町避難を決定し、全町民を一括受け入れ可能な会津若松市に避難した。その後、家族の勤務先・通学先などの事情もあり、町民の移動が大きく、2019 年 10 月末の人口は 10,305 人(会津若松市に 777 人、いわき市に 4,650 人、郡山市に 1,084 人など福島県内に 7,851 人、県外に 2,466 人、町内居住者は住民登録していない転入者を含んで 721 人(全体の約 7%)であるという

2018(平成 30)年実施した町民へのアンケート調査でも、「戻らないと決めている」が約 60%、「まだ判断がつかない」が約 27%、「戻りたいと考えている」が約 13%で、職業や教育などの理由から高齢者以外の帰還者は少ないと思われる。

2017(平成 29)年 6 月 27 日、空間放射線量が比較的に低い居住制限区域の大川原地区を大川地区復興拠点として整備開始し、2019(平成 31)年、避難指示解除準備区域の中屋敷地区が避難指示解除となった。

(大川原地区復興拠点)

大熊町では大川原地区を特定復興拠点区域に位置づけ、その最初の施設として帰還困難区域で原発の廃炉作業などに従事する人々に昼食を供給する給食センターを建設した。当初、3,000 食ほどの昼食を供給していた。廃炉準備作業の進行につれて従事する作業員数も当初 7,000 人から現在では約半数に減じているが、現在も給食を続けている。その後、植物工場の他、災害公営住宅 50 戸の他、町職員宿舎や東電単身寮なども建設され、帰還者の他に新しい住民も入居している。東電の施設である大熊食堂も一般の人も利用できるようになった。

2015 年に視察した大川原地区は復興拠点が具体的に如何に整備されるのか見通せず、建設現場の雰囲気であった大川原地区を役場庁舎 2 階から眺望した。

安倍首相も視察したという庁舎 2 階の展望スペースから大川原地区の住宅、プレハブのコンビニ、東電職員宿舎、災害公営住宅、その隣接地に建設中の温浴施設などを観た。まだまだ道半

ばであろうが、コンパクトで住みやすい町づくりが徐々に進められていると思った。大熊町は人の生活とにぎわいの復活を目指して、町営の生活循環バスを運行している。マイクロバスで大川原復興住宅～大熊町役場～富岡中央病院～さくらモール・富岡診療所～富岡駅のコースで、平日はほぼ 1 時間おきに、土曜日は昼間の 4 便、運賃は無料で運行し、町民や一般者の買い物や医療などの交通手段を確保している。

また、富岡町内を走る路線バスとの競合を避けるため、乗車／降車できる駐車場が限定されているのと説明があった。

2-2 大熊町内視察

10:00～11:00、高田事務局長のご案内で大熊町を一巡して現状を視察した。

大川原地区から富岡町に入り、かつてのスクリーニング場跡、夜ノ森公園を経て、線量が $5\mu\text{Sv/h}$ を超える場所がある帰還困難区域を通行した。

(中間処理施設)

道路の右側は中間貯蔵施設で、前日のふたばいんふおの平山さんの説明では、県内各地に仮置きされていたフレコンバッグの除染廃棄物は、2019 年 10 月までに総量約 1400 万 m^3 のうち約 600 万 m^3 、約 45% 程度が中間貯蔵施設に移送された。今後 2～3 年間で中間処理は終了し、30 年間貯蔵した後福島県外へ最終処分する計画である。

高田事務局長の実家も中間貯蔵施設内の道路沿いにあったが、現在は更地になり、道路沿いは外部と遮断する土堤として盛り土されると聞いた。

前回 2015 年の視察時には、中間処分場へのフレコンバッグの試験輸送をしていた。中間処分場の土地取得について地権者の合意がどの程度得られているのか、質問しても回答は聞けなかったが、今回、中間処理施設や最終処分施設など帰還困難区域内の処分用地は約 88% が国により取得済みで、全体登記記録地権者数 2360 人のうち約 83% の地権者について取得済みとのことであった。しかし、地権者の一部についてははなお不明であるとのことであった。

(大野駅から大熊 IC へ)

常磐線大野駅周辺は、前回視察時には荒廃していたが、JR 東日本は、2020 年 3 月頃の浪江～富岡間の開通を目指しており、橋上駅舎が建設され、線路沿いや駅周辺では除染や草木の伐採も終わっていた。

中屋敷地区では、双葉郡の中核医療施設であった大きな福島県立病院が空しく立ち、8 年前の避難当日、町の集会所(消防団詰所)集合した町民が放置した車そのまま残り、丈なすカヤの中に埋もれていた。水田は 8 年の間にヤナギが繁茂して荒廃したままのところもあったが、一部では水田の除染も徐々に始まっていた。

なお、復興工事と除染土などの輸送車両で渋滞する道路については、常磐道の双葉～大熊～富岡 IC 間の往復 4 車線化で対処することとし、工事も進んでいる。

(イチゴ栽培施設～役場まで)

栽培したイチゴ酸味がやや強く、生食よりもピュレにして氷イチゴのシロップにすると絶品とのことであった。ピュレ生産施設の詳細、出荷量などについては確認できなかった。さらに品種改良も進めて、強力な地場産品が生まれたらとよいと思った。

大熊町の災害公営住宅は 2LDK10 棟、3LDK40 棟が建設され入居済みとのことであった。この他、大熊町外に避難している町民は福島県営災害公営住宅に入居し、いわき市内に 320 戸、南相馬市内 100 戸、二本松市内 45 戸、福島市内 39 戸、郡山市内 33 戸など 10 市町に分散して居住している。これらの災害公営住宅の維持管理・連絡などに加えて、各地の分庁舎・出張所なども維持して行政サービスの維持を図っている。

災害公営住宅から少し離れた地点には、鹿島建設㈱の事務所建物と職員宿舎があった。

鹿島建設(数社との共同企業体)は富岡町で発生した津波がれき、家屋解体廃棄物、片付けごみ、除染廃棄物などの処理を請け負い、帰還困難区域内で破碎選別、減容化処理などした。また、平成 30 年度からは富岡町特定復興再生拠点区域の住宅 32.5ha の解体撤去工事、農地 21.3ha および森林 17.69ha の除染工事を請け負っている。これだけに限っても、投入された国費や従事者数は莫大な数に上るであろう。

その先には東電の子会社の東京パワーテクノロジー株式会社の 3 階建てのビルがある。同社は廃炉作業で発生したガレキなどの保管・処理・減容化処理などを行っているが、廃炉作業で異常事態が発生した場合の富岡町民の退避場所にもなっている。

土曜日の午前中ということで、大熊町の人影はほとんど見られなかったが、大熊町は帰還者と東電関係者および廃炉関係各企業の職員など新住民とのコンパクトな町づくりからの再建をはかっている。

任期を終えて退任する町長はじめ大熊町民の皆様の今までの筆舌し難いご苦勞と、新しい大熊町建設に向けての復興努力、困難への挑戦を感じ入った。

アンケート調査に、「あなたは富岡町民になったら何をしたいと思うか」という設問があった。小生は富岡町に移住することはないが、富岡町は気持ちの良い土地で気候も穏やかであり、若くてやり甲斐のある仕事があれば定住するのも悪くない。

(終わりに)

今回富岡町と大熊町を訪れて、原発事故の災厄と悲しみに立ち向かい、超克しようとする各町や県、国、東電など関係者の意志と努力、復興に必要な知恵と技術開発などの動員、膨大な事業費や労働力など資源の投入を観ることができた。前回視察時に比べて復興への歩みが着実に進みつつあるのを感じた視察研修であった。

【木戸川漁協】

3-1 Jヴィレッジ

16日に訪れたJヴィレッジにはかつてのような見事なピッチが戻っていた。かつてはホテルに宿泊すると玄関横に鮫島選手などの大きな写真が貼ってあって、サッカーファンでなかった小生も選手たちの顔やポジション、血液型などを覚えたものである。J ヴィレッジ駅もできてアクセスも良くなった。常磐線全通以降は、榑葉町および周辺市町村の観光資源とのタイアップした広報を行うとともに、2011年3月の原発事故の緊急事態下での復旧状況の写真や資料などでJヴィレッジの過去と現在を展示していた。

3-2 榑葉町の現在

2011.3.11 震災発生時の人口は8,011人であった。全町避難となったが、2015年9月5日に避難指示解除準備区域になり、2016年7月16日、避難指示解除となった。2019年8月現在の住民登録者数は7,215人で、その内県内避難者は6,439人、県外避難者は776人となっている。そして、現在の町内居住者は1955世帯の3,877人である。榑葉町は他の町と比較して帰還者数も多く、住宅や公共施設、インフラなどの被害も少なく、復興への歩みは比較的早かった。

3-3 木戸川漁業協同組合

11:20 榑葉町木戸川漁業協同組合に到着し、鈴木鮭採捕場について説明を受けてヤナを見学した。

震災前の木戸川は毎年70,000~100,000匹のサケが遡上する本州でも有数の遡上場であったが、震災後、ふ化事業(稚魚の放流)が出来なかった。しかし、水産研究所などの研究の結果、サケには放射線線量はほとんど検出できず、安全が証明されたので、2015年から従来と同様に採捕を再開している。2016年は一千万匹の稚魚の放流を目指しているが、戻ってくるのはわずか0.5%程度である。サケは4~5年後に戻るため、2015年は例年の十分の一しか捕れなかった。それでも、木戸川に戻ってくれたサケは榑葉町民の希望のサケとなっている。

しかし2019年は台風のためにヤナが損傷した上に、全国的にサケの遡上が少なく、例年なら3000~8000匹が採捕できるのに、今年はわずか278匹という不漁である。原因は不明であるが、通常、4歳魚が戻ってくるのに、全国的に不漁なので、何らかの理由があるのか。5歳魚が来年遡上してくることを期待しているとのことであった。

採卵場の水槽で受精させた卵は多い年には1,400万個になるのに対し、今年は漁期が残りわずかになってもわずか40,000個程度であった。

今年は悪天候のため鮭祭りも中止となったが、来年の10月末には、是非、鮭祭りを開催したいと話していた。機会をつくり、訪ねてみようと思う。



【参加者:女性 60 代】

視察研修を通じて学んだこと、感じたこと、伝えたいことなど

【富岡町】

ふたばいんふお 平山さん。24 年東京で暮らしていた。

双葉郡 7 万 4 千人が非難する時、100m 進むのに 3 時間かかった。神奈川からだったら・・・、防災＝人口を減らさなければ逃げ場がない。

富岡町 2017.4.1 避難指示解除になっても、戻ったのは約 16,000 人のうち 1,000 人程、戻るのではなく先ず、自宅の解体が多かった。

再開した小中学校 かつて約 1,400 人の生徒・児童が現在は 17 人。帰還者と新しい住民が半々とのこと。数字も帰還者ではなく居住者数で。

ここ 2 年でアパートが 3～40 棟立ったが、東電等で働く人のためのもの。

今年度中に浪江⇄富岡間、常磐線が再開通(予定)すれば少しは増えるか。電車は走っても駅前は何もない、帰還困難区域も多く。

避難解除になっても、教育、医療、福祉がなければ戻れない。

それぞれの避難先での生活もできあがり、戻れない、戻れない、戻らない。理由も色々。

9 年経てば田圃も森に変わってしまう。帰っていいと言われても。

動き出すことで見えてくる問題も多くある。正しい情報を選択し、まず現状を知ることが大切。直に見て聞いて！感じる大切。

<リプルンふくしま>

子どもは内容わからず楽しめそうだがムダにハイテクな施設との印象。

<特定廃棄物埋蔵施設>

廃棄物運搬のトラックは GPS で経路も管理。2 年経過し 7 段まで積みあがっている。

現在、中間貯蔵されているものをどうするのか。いまだ未定。中間貯蔵を受け入れた大熊町を指してトラックの渋滞も起きている。風景、景色がどんどん変わってる。

<廃炉資料館>

これもお金のかけ過ぎ。他にかけるところがあるだろう！！

「反省と教訓」の映像は腹立たしい限り！！うわべだけとしかとれない。

反省と謝罪の言葉の羅列を延々聞かされて納得できる人がいるのだろうか。締めくくりは安全を



創造し続ける原子力事業者になるとの宣言めいた言葉。だれのためのなんの施設なのか。

【大熊町】

町役場はあたたかみを感じる建物。2019 年 5 月開所したが現在もいわき等に出張所あり。山、海、原発も見える。

まだまだ帰還困難区域もあり、職員寮も建てたが、いわきや会津からの通勤者も。

田圃の跡は森のようになっている。太陽光パネルが並んでいるところも多い。

復興予算が支給されなくなった時が正念場。

中間貯蔵の受入れ。いくつもの行政区にまたがっていることで新たな“分断”を生んでいる。貯蔵区域以外は除染対象外、区域内の民家、特に道路沿いは見栄えをよくするために盛土をして植栽を。案内していただいた高田さん宅も解体させられたとのこと。

国も東電も信じられず、町職員が空間放射線量を測っている。中間貯蔵施設は東京ドーム 11 個分、すでに三分の一が完了。あと 3 年で一杯になる計算。貯蔵期間を終える 30 年後はどうなるのか。どうするのか、決まっていない。

8 年間泊まっていた町が動き出したところ。8 年過ぎて“もどらない”と決めた町民も増えている。もどらないと決めた人の支援も含め、復興計画は見直して改定している。

新しい分断が起きていることが悲しい。元にもどったかのような報道もありマスコミをうのみにしてはいけない。

【木戸川漁協】

ようやく鮭祭りが再開できると思ったところで台風被害。

「大震災からも立ち直ったのだから台風被害からもコツコツやれば大丈夫と思える」と力強い言葉を聞くことが出来たのは良かった。

3.11 では電気が止まり稚魚も亡くなり、立ち入りできるようになるまでは放置。一般毛帝が先、と東電からも後回しにされた。

「鮎の中間育成場は断念せざるを得ないが、ヤマメやイワナ等近々解除できるかも」

産卵から稚魚になるために積算 1000℃

放流して 4 年、ベーリング海まで行き、もどってくるが、今年は他の川も戻りが悪い。

木戸川が逆流し、処理施設も胸まで浸水した。若い職員さんが居ることが心強く感じた。

ホテルが満室になり町がにぎわう鮭祭りの復活を願います。



【参加者:女性 60 代】

視察研修を通じて学んだこと、感じたこと、伝えたいことなど

【富岡町】

初めての小良ヶ浜エリア(大熊町側は小良浜)と夜ノ森エリアと呼ぶことを知った。

駅の左側の防潮堤方面が整備されていて違う風景が。kfor が南相馬の風景の変わりゆく姿を見続けている間に、この地域は訪れる人たちも少なく今も懸命に動き続けているのだなと申し訳ない気分になった。

平山さんの撮り続けた富岡の姿。ここにもこんな奮闘している方がいたのだと改めて思いました。ボランティアを引き連れて、活動を主にされているものとばかり思っていた。

リプルンふくしまの女性スタッフ、ふたばいんふおのスタッフと若い方が、この地域でお仕事され、沢山の方々に関心を持って頂けるよう、応援したいと思いました。

富岡ホテルも気持ち良く安心して利用できる、食事の美味しい、清潔なところと伝えたいと思った。

【大熊町】

大熊町役場前の広大な広場と建物、駐車場。何も動くものがない風景、日曜で役場がお休みだという事もあるが、たびたび静かさの中で驚いた。

お祭りの初のお披露目の日本の安倍首相のお話し、とてもお祝いとは言えない話をこれは何度も多分されていて集まった町民の方々もさぞかしと。

町内を巡って頂き、改めて田畑の柳が、土地が良く手入れされているからこそ柳が立派に育っているという話で、震災前の丁寧な暮らしぶりをそこから拾い出し、お話された事がうれしかった。そしてその中に放置され、うずもれたままの車が、まだこんなにと、帰宅困難区域をかかえた町の姿、あの立派な役場との対比が印象的だった。

大手企業の新しい建物が避難所機能を持っているというのも、これから他の地域でもどんどんあったらともすばらしいと思った。

【木戸川漁協】

震災の日、停電により、育てていた稚魚が全て死に水槽に浮いたパネルが無念さのすべてだと感じ、ここにもこんなつらい事がと。慰霊碑もその後の 8 年間を見守って、応援しているかんじがした。若いスタッフも木戸川の誇りをついでふんばっている事が感じられ、応援したいと思った。



5. 参加者情報

5.1. 参加者数

| | 合計 | 女性 | 男性 |
|-----|------|-----|-----|
| 参加者 | 15 名 | 8 名 | 7 名 |
| 宿泊者 | 15 名 | 8 名 | 7 名 |

5.2. 参加者年代

| | 30 代 | 40 代 | 50 代 | 60 代 | 70 代 | 80 代 |
|----|------|------|------|------|------|------|
| 年代 | 0 名 | 1 名 | 7 名 | 6 名 | 0 名 | 1 名 |

5.3. 参加者地区

| | | | |
|----------|--------|-------|---------|
| 厚木市 | 鎌倉市 | 相模原市 | 座間市 |
| 1 名 | 1 名 | 2 名 | 1 名 |
| 秦野市 | 葉山町 | 横須賀市 | 横浜市神奈川区 |
| 1 名 | 1 名 | 1 名 | 2 名 |
| 横浜市金沢区 | 横浜市港北区 | 横浜市栄区 | 横浜市都筑区 |
| 1 名 | 1 名 | 1 名 | 1 名 |
| 横浜市保土ヶ谷区 | | | |
| 1 名 | | | |

6. 視察研修便参加者アンケート集計

今回は参加者 15 人でした。受理した回答数は 14 で、()内の数字が有効回答数です。

(1)参加のきっかけ

a(05)福島でお手伝いしたいと思ったから

b(09)日程や工程がよかったから

c(---)知人・友人に誘われたから

d(06)その他

- ・ 視察研修便に参加したかったから
- ・ 富岡町、大熊町の現状を知りたかったから
- ・ 原発立地自治体を見たかったから
- ・ 福島の実情を知りたかった
- ・ 福島のことを理解したい。現状を知りたい
- ・ いつものガテン系ボランティアと違う、現場の方の想いを聴く機会だから

(2)情報提供

a(13)ちょうどよかった

b(01)少なすぎた

- ・ 大熊町の生活状況、原発事故前とか今回情報が少なすぎた。ふたばいんふお、富岡ホテルの歴史とか簡単なものでもスタッフは知っていても、一般は知らない。

⇒そう、知りたいと思っていただけだ。ありがとうございます。みなさん知ってください。いく事ができたら訪れてみてください。そのきっかけに。

c(---)多すぎた

(3)活動内容

a(07)非常に満足

b(07)満足

- ・ 実際に見て、話を聴き、質問するという各パートで時間不足を感じることもあったが、実際にお聞きした内容から見て適切であった。また、初日の夕方、ふたばいんふおに戻り、強く時間を意識することなくゆっくりと過ごす時間、ビデオを見ながら自由に話を聴く時間が持てたことは非常に良かった。

⇒実際に行って、見て、話を聴いて。それが大切ですね。ありがとうございます。

・ 東電廃炉資料館はもっと長いと良かった。

・ 東電廃炉資料館は自由に見てまわれる時間がもっと欲しかった。

⇒みなさん、まだ行かれた事のないところがありますよ。

c(---)不満

d(---)非常に不満



(4) 今後も kfor のボランティア活動に参加しようと思いますか。

a(14) 参加したい

- ・ kfor 役員の人脈や信頼／信用関係から、相互に不快／本心に迫る話を聴けている。相手に受け入れられていることができ、安心して活動に参加できるから。

b(---) 参加したくない

(5) 計画に示している現地活動等に参加したいと思いますか。

a(12) 活動便

b(13) バス便

c(14) 視察研修便

d(05) その他

- ・ 日程と体調如何であるが。
- ・ 今回行った木戸川漁協まつりの訪問(お手伝いできることがあれば一番良いのですが)。この先 9 年ぶり、10 年ぶりといったことがあれば、そのお手伝いをしたい。

(6) 今回の活動についてご意見、神奈川に伝えたいこと(自由に)

- ・ 今回の視察が、福島固有であり核心である原発をテーマにしたもので、各種公表された情報では分からない部分を、実際に見て・説明を聞き、質問で深め、やりとりから本心に少しでも迫れたのではないかと思う。一番はそこに暮らしている／暮らすための葛藤や分断に触れることができた。講演会を含めて仲間を誘って、神奈川から多様な福島の実情を感じ、もらうことで広められればと思う。
- ・ 今回は盛沢山でした。特に、全く知らなかった「リプルンふくしま」や会館 1 年くらいの「東電廃炉資料館」も見ることができました。相双ボランティアの平山代表に会えて人柄を知ることができたことは、とても良かったです。
- ・ 住民、避難者、町、県、国、東電、関係者の苦悩を強く感じた。その苦闘と哀しみ、明日への努力を皆に伝えていきたい。
- ・ 福島の実情を神奈川全部の人が知って欲しい。

⇒ありがとうございます。押し付けることなく関心おありの方に伝えてください。

- ・ 富岡町、大熊町はこの 2~3 年の間にも多く区変わっているので、その変化を見続けていきたいです。
- ・ いつもながら綿密な準備ありがとうございます。8 年経ってようやく動き出した町があること、再認識し伝えたいと思います。
- ・ とても情報量が多かった。また、行政の立場ではなく町の住民の目線からお話し、ご案内いただけたことも、以前の視察のときと違って、一面的ではなく良かったと思う。
- ・ 木戸川漁協、鈴木さんの話には、今までの事業と今回の台風による被害に 5 年目に帰る鮭を期待しつつ、ものすごいダメージを受けながら案内に感謝します。カレンダーとてもうれしい。無理なさらないように。富岡町の平山様、大熊町の高田様も感謝します。
- ・ 研修便は自分ひとりでは体験できない。現地の人のお話しが聞け、現地の見学もできるという点

で非常に有意義です。この企画を今後も続けてください。

- ・ どちらかというと内容が多かった。一日目は一か所でもう少し時間をかけても良かったと思う。二日目の昼食はもう少しゆっくり時間があると良かった。早く出そうなメニューを選んだのに最後に出てきて急ぐことになった。
- ・ 富岡町、大熊町、榎葉町の 3 町に行かせていただき、様々な想いを聞かせていただけた。やはり実際に足を運ばないと見えてこないことがあると感じた。これからの福島のことも見続けていきたい。
- ・ 一泊二日であったが、内容の濃い研修であったと思います。また、途中、時間に余裕があるからと、道の駅ならはや、J ヴィレッジにも立ち寄れて良かったです。柔軟性があるのも良かったです。
- ・ 綿密な打ち合わせがあつての無駄のない程、いつもながら感謝です。全員が福島に寄り添い続けているからこそその動きともいえるかも。

(7) 今後の活動に期待すること(自由に)

- ・ 事業の実施／実現は、事前訪問や調整などの入念な準備があつてできていることと理解します。福島との目に見えるつながりは、細く、長い、寄り添った活動にできればと、自分できる範囲のかかわり方を続けられればと思います。今後ともよろしく願いいたします。
- ・ 視察研修便は継続して欲しい。復興に向けて歩んでいく姿を見て知っていききたいので。
- ・ バス便は今後も出して欲しい。
- ・ 福島県の情報発信(台風 19 号関連を含む)
- ・ できることをできる人ができる時に。活動内容も変化があるけれど「継続」を期待します。
- ・ 機会があれば木戸川の鮭祭りは再訪してみたい。
- ・ 変わらず福島の時間の動きにアンテナを常に張って行く。

(8) アンケート回答者の属性

- 性別: 男性(06), 女性(08), 無回答(--)
- 年代: 20 代(--), 30 代(--), 40 代(01), 50 代(06), 60 代(05), 70 代(01), 無回答(--)
- 職業: 会社員(05), 自営(02), パート/アルバイト(05), 家事(--), 無職(02), その他(03), 無回答(--)
- 経験: 初めて(--), 2-3 回(--), 4-5 回(--), 6-9 回(01), 10 回以上(13), 無回答(--)



7. 会計(実績)

(単位:円)

| 項目 | 金額 | 個数 | 合計 | 備考 |
|----------|--------|----|---------|-------------------|
| バス費 | 15,500 | 1 | 15,500 | azbil みつばち倶楽部(寄付) |
| 高速料金 | 14,960 | 1 | 14,960 | kfor 事業 3 費 |
| バス運転手宿泊費 | 8,600 | 1 | 8,600 | kfor 事業 3 費 |
| バス運転手昼食費 | 1,300 | 1 | 1,300 | kfor 事業 3 費 |
| 案内費 1 | 10,000 | 1 | 10,000 | kfor 事業 3 費 |
| 案内費 2 | 16,500 | 1 | 16,500 | kfor 事業 3 費 |
| 会議費 | 4,500 | 1 | 4,500 | kfor 事業 3 費 |
| 雑費 | 5,040 | 1 | 5,040 | kfor 事業 3 費 |
| バス代 | 10,700 | 15 | 176,000 | 参加者自己負担 |
| 旅行保険 | 200 | 15 | 3,000 | 参加者自己負担 |
| 宿泊実費 | 8,600 | 15 | 129,000 | 参加者自己負担 |
| 飲食実費 | 各自 | 15 | 各自 | 参加者自己負担 |
| 研修報告冊子化代 | 5,000 | 1 | 5,000 | azbil みつばち倶楽部(寄付) |
| 研修報告冊子化代 | 5,000 | 1 | 5,000 | 端数倶楽部支援金(寄付) |
| 合計 | | | 394,400 | |

※バス代実費、宿泊費等は参加者の自己負担。参加者が直接バス会社、宿泊先へ支払い。

※バス代金の一部は、azbil みつばち倶楽部様の支援金(寄付)を活用した。

※視察研修報告書の冊子化費用は見込みで計上

(azbil みつばち倶楽部様、端数倶楽部様の支援金(寄付)を活用)

以上



保護用紙

【 福島 114 便(視察研修 7 号) 】
視察研修(富岡町・大熊町・楡葉町)



I. 実施日 : 2019年11月16日(土)~11月17日(日)

II. 趣 : ①東日本大震災と原発事故を『伝えていく』
②地元の現状、今を『正しく知る・伝える』
③自分達にできることを『考える』

III. 催 : かながわ「福島応援」プロジェクト

IV. 協 : 平山 勉 様
(相双ボランティア 代表、双葉郡未来会議 事務局、
有限会社ホテルひさご 代表 平山"two"勉)
ふたばいんふお
特定廃棄物埋立情報館リプルンふくしま
東京電力廃炉資料館
一般社団法人おおくままちづくり公社
木戸川漁業協同組合
富岡ホテル
azbil みつばち倶楽部(活動報告冊子化)

V. 内容・日程 : 双葉郡(富岡町、大熊町、檜葉町)の現地視察および研修

11月16日

1. 双葉郡について(研修 1)
・講話 於:ふたばいんふお(富岡町)
2. 富岡町内視察(視察 1)
・富岡町内ご案内 於:富岡町内
3. 特定廃棄物埋立情報館リプルンふくしま(視察 2)
・施設ご案内と見学 於:リプルンふくしま
4. 東京電力廃炉資料館(視察 3)
・施設ご案内と見学 於:東京電力廃炉資料館

11月17日

5. 大熊町の現状について(研修 2)
・講話 於:大熊町役場
6. 大熊町内視察(視察 4)
・大熊町内ご案内と質疑応答 於:大熊町内
7. 木戸川漁業協同組合視察(視察 5)
・木戸川 鮭ふ化場ご案内 於:檜葉町木戸川漁協

※今回視察研修にあたり、実施後に参加者より「参加して」のレポートを取りまとめる。
(参加者全員に A4 数枚の参加レポートを提出していただきます。)

1. はじめに

(1) 双葉郡の紹介

(一部 Wikipedia から引用)

【双葉郡の概要】

双葉郡は福島県浜通りにある郡であり、広野町(ひろのまち)、榎葉町(ならはまち)、富岡町(とみおかまち)、川内村(かわうちむら)、大熊町(おおくままち)、双葉町(ふたばまち)、浪江町(なみえまち)、葛尾村(かつらおむら)の6町2村から成る。

人口 5,854 人、面積 865.71km²(2019 年 10 月 1 日、推計人口)

【双葉郡の歴史】

戦国時代に岩城氏・江戸時代に磐城平藩の領地だった榎葉郡(夜ノ森以南)と、戦国時代から江戸時代まで相馬氏(江戸時代は中村藩)の領地だった標葉郡(夜ノ森以北)が、1896 年に合併されて成立した。

旧標葉郡は、鎌倉時代から戦国時代前半までは標葉氏の領地だった地域で、戦国時代後半から江戸時代までの相馬氏統治下では中村藩による政策で陶磁器産業が奨励され、越中国(現富山県)からの開拓者が入植した地域である。そして、20 世紀前半には森林鉄道が操業していた地域である。

一方の旧榎葉郡は、7 世紀前半の国造時代には石城国造や多珂国の領土、戦国時代の岩城氏統治下では岩城四十八館や岩城氏家臣の居城(高倉城など)が点在し、江戸時代には譜代大名である内藤氏や安藤氏が治める磐城平藩だった地域である。そして、20 世紀前半には常磐炭田が広がっていた地域である。

このように、一口に「浜通り」「相双」とは括れない地理的・歴史的背景があり、現在でも夜ノ森または大熊(福島第一原子力発電所)を境にして生活圏が異なっており、旧榎葉郡は平や水戸との、旧標葉郡は中村や仙台との交流が親密である。

双葉郡は、20 世紀を通じて東京にエネルギーを送る「エネルギー源地帯」になって来たが、20 世紀後半の高度経済成長期以後の特徴は「電源地帯」であり、長塚(双葉町)以南は首都圏に電力を送っている。又、双葉郡の全域とも、小泉純一郎政権によって推進され、「頭や足に方角」や「ひらがな」の市名を付ける平成大合併に対しては、矢祭町や下伊那郡と同様に否定的であった。そして、平成大合併前から発電所財源を逆手に取った地域振興策(例:J ヴィレッジ。広野と榎葉に跨がって位置する)や、平成大合併後も発電所とは無関係な名産や話題(例:DASH 村。浪江の山間部)で活性化を図るなど、独立性の高い地域振興策が実施されていた。

しかし、2011 年 3 月 11 日の東日本大震災では、各地で 10 メートルを超える高い津波を被った。特に、東日本大震災に誘発された福島第一原子力発電所事故に伴い、大半の地域が帰還困難区域・居住制限区域・避難指示解除準備区域に指定されている。(事故後からしばらくは警戒区域・計画的避難区域に指定されていた)

2. 双葉郡の被災状況

(福島県災害対策本部発表)

(1) 人的被害

(人数)

| | 死者 | | | | 行方不明者 |
|-----|-----|-------|------|-------|-------|
| | 直接死 | 関連死 | 死亡届等 | 死者数計 | |
| 広野町 | 2 | 44 | | 46 | 1 |
| 檜葉町 | 11 | 139 | 2 | 152 | |
| 富岡町 | 18 | 438 | 6 | 462 | |
| 川内村 | | 100 | | 100 | |
| 大熊町 | 12 | 124 | | 136 | |
| 双葉町 | 17 | 152 | 4 | 173 | |
| 浪江町 | 151 | 434 | 31 | 616 | |
| 葛尾村 | | 39 | 1 | 40 | |
| 合計 | 211 | 1,470 | 44 | 1,725 | 1 |

(2) 住家・非住家被害

(棟数)

| | 住家 | | | | | 非住家 | |
|-----|-------|-------|-------|------|------|------|-------|
| | 全壊 | 半壊 | 一部破損 | 床上浸水 | 床下浸水 | 公共建物 | その他 |
| 広野町 | 160 | 593 | 3,244 | 30 | | 1 | 239 |
| 檜葉町 | 147 | 1,218 | 289 | | 13 | 9 | 61 |
| 富岡町 | 355 | 2,819 | 2,130 | | | | 288 |
| 川内村 | 8 | 568 | 167 | | | 3 | 225 |
| 大熊町 | 272 | 2,075 | 25 | | | 4 | 109 |
| 双葉町 | 103 | 14 | 1 | | | | |
| 浪江町 | 772 | 2,384 | 154 | | 2 | | 296 |
| 葛尾村 | | 31 | 1 | | | | 194 |
| 合計 | 1,817 | 9,702 | 6,011 | 30 | 15 | 17 | 1,412 |

(3) 避難の状況

福島県内への避難状況

(人数)

| | 仮設住宅 | 借上住宅 | 公営住宅 | 雇用促進住宅等 | 親戚宅等 | 合計 |
|-----|------|-------|------|---------|-------|-------|
| 広野町 | | | | | 614 | 614 |
| 檜葉町 | | | | | 774 | 774 |
| 富岡町 | 46 | 990 | 3 | 3 | 256 | 1,298 |
| 川内村 | | | | | 560 | 560 |
| 大熊町 | 67 | 767 | 8 | 4 | 75 | 921 |
| 双葉町 | 6 | 321 | | 2 | 309 | 638 |
| 浪江町 | 13 | 1,155 | 6 | 52 | 414 | 1,640 |
| 葛尾村 | | 9 | | | 114 | 123 |
| 合計 | 132 | 3,242 | 17 | 61 | 3,116 | 6,568 |

※福島県全体で 10,699 人(2019 年 10 月 31 日現在)

福島県外への避難状況

福島県全体で 31,217 人、避難先不明者 13 人(2019 年 10 月 9 日現在)
 うち東京都に 3,485 人、神奈川県に 1,940 人

3. 避難区域の変遷

(「ふくしま復興ステーション」から引用)

2011 年 3 月 11 日

| | | |
|-----------|------|------------------------------------|
| 19 時 03 分 | 福島第一 | 原子力緊急事態宣言発令 |
| 20 時 50 分 | 福島第一 | 県が半径 2km 圏内に避難指示 |
| 21 時 23 分 | 福島第一 | 国が半径 3km 圏内に避難指示、半径 10km 圏内に屋内退避指示 |

2011 年 3 月 12 日

| | | |
|-----------|------|---|
| 5 時 44 分 | 福島第一 | 国が半径 10km 圏内に避難指示 |
| 7 時 45 分 | 福島第二 | 原子力緊急事態宣言発令 国が半径 3km 圏内に避難指示、半径 10km 圏内に屋内退避指示 |
| 17 時 39 分 | 福島第二 | 国が半径 10km 圏内に避難指示 |
| 18 時 25 分 | 福島第一 | 国が半径 20km 圏内に避難指示 |

2011 年 3 月 15 日

| | | |
|-----------|------|----------------------|
| 11 時 00 分 | 福島第一 | 国が 20~30km 圏内に屋内退避指示 |
|-----------|------|----------------------|

2011 年 4 月 22 日

避難区域の設定

警戒区域

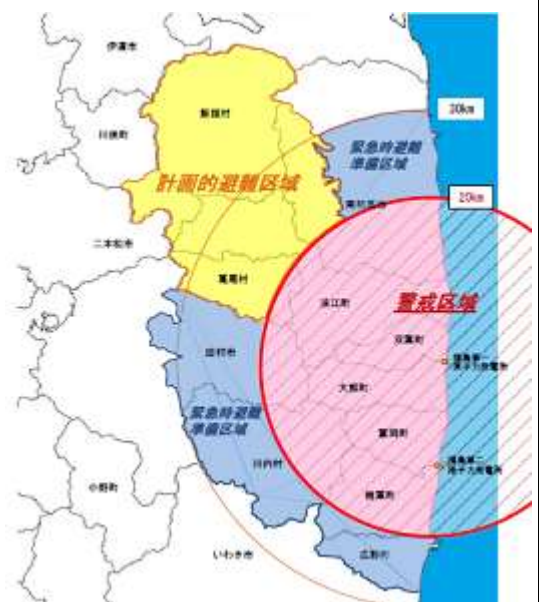
富岡町、大熊町、双葉町のそれぞれ全域、田村市、南相馬市、楡葉町、川内村、浪江町、葛尾村のそれぞれ一部

計画的避難区域

浪江町、葛尾村の警戒区域を除いた区域、飯館村全域、南相馬市の警戒区域を除いた一部、川俣町の一部

緊急時避難準備区域(2011 年 9 月 30 日に解除)

広野町・楡葉町・川内村、および田村市と南相馬市の一部のうち、福島第一原子力発電所から半径 20 キロメートル圏外の地域



2011 年 9 月 30 日

緊急時避難準備区域を解除

特定避難勧奨地点(事故後 1 年間の積算線量が 20mSv 以上になるホットスポット)を設定

2012年4月1日

避難区域の見直し

帰還に向けた環境整備と地域の復興再生を進めるため、年間積算線量の状況に応じて以下の3つの区域に再編

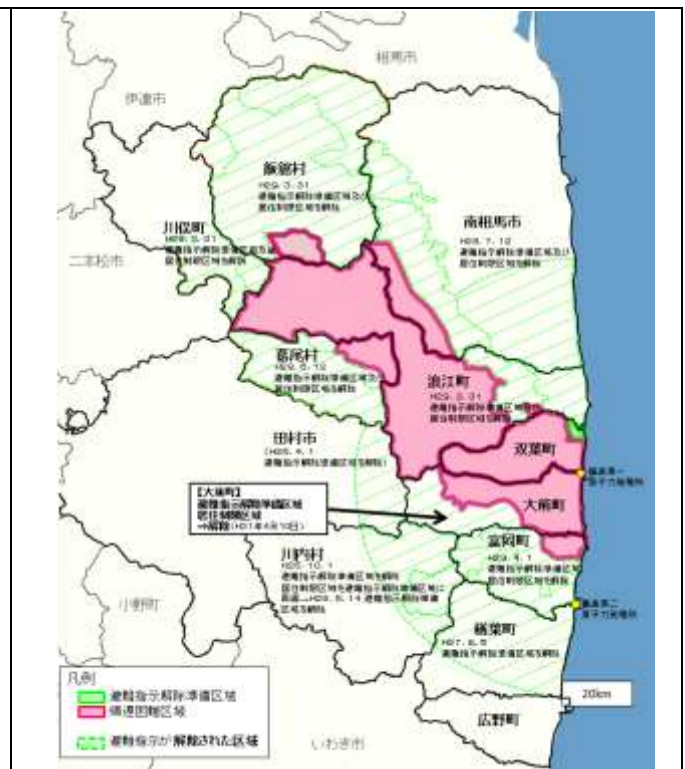
避難指示解除準備区域

居住制限区域

帰還困難区域



2012年4月1日時点



2019年4月10日時点

4. 視察先について

(1) 富岡町

(「ふくしま復興情報ステーション」HP、富岡町 HP より抜粋)

●区域の設定状況

- ・全町避難 → 一部解除
- ・避難指示解除準備区域(2017年4月1日解除)
- ・居住制限区域(2017年4月1日解除)
- ・帰還困難区域

●人口

- ・2011年3月11日時点の住民登録人口:15,960人
- ・町内居住者:552世帯791人(前月比+21)(2019年10月1日現在)
- ・福島県内への避難者数:9,714人(前月比-29)
- 福島県外への避難者数:2,627人(前月比-10) 合計:12,341人

●市町村役場(仮庁舎等の設置状況)

- ・富岡町庁舎(2017年3月から業務再開)
- ・いわき支所
- ・郡山支所

●公共交通機関(鉄道・バス等)

- ・JR常磐線
- 「富岡駅-竜田駅」:2017年10月21日再開通(コンビニ機能(物販・飲食)併設)
- 「富岡駅-浪江駅」:2019年度中再開通予定
- ・バス
- 急行「富岡線-いわき駅」:月~土曜日、4往復/日
- 高速バス「仙台-いわき」線:7往復/日(常磐富岡IC駐車場経由)
- 「町内循環バス」:月~土曜日、6循環/日(復興拠点地区内の循環)
- デマンドバス「さくら号」月・水・金・土曜日(復興拠点地区以外の循環)
- 「富岡町-川内村」:月~金曜日、3往復/日

(2) 特定廃棄物埋立情報館リプルンふくしま

(環境省「特定廃棄物の埋立処分事業情報サイト」より引用)

放射性物質汚染対処特別措置法に基づき、国の責任において処理を行う対策地域内廃棄物または指定廃棄物のうち、福島県内で発生した放射能濃度10万Bq/kg以下の廃棄物については、既存の管理型処分場(旧フクシマエコテッククリーンセンター)を活用し、環境省の事業として埋立処分を行います。

環境省は、処分場内に現地事務所を新設して現場責任者を常駐させ、埋立処分の実施状況を管理し、施設点検やモニタリング等を実施します。また、学識経験者、福島県、富岡町、楡葉町及び地域住民で構成される環境安全委員会等を設置し、様々な立場からの指導・助言等を得ることにより、埋立処分を適切に実施します。

モニタリング結果の公表や万一の事故時についても、責任を持って対応いたします。

リプルンふくしまは、環境省が運営する、特定廃棄物の埋立処分事業の概要や必要性、安全対策、進捗状況などについて学べる体験型の情報館です。

(3)東京電力廃炉資料館

(東京電力 HP より引用)

原子力事故の記憶と記録を残し、二度とこのような事故を起こさないための反省と教訓を社内外に伝承することは、当社が果たすべき責任の一つです。
 長期にわたる膨大な廃炉事業の全容が見える化し、その進捗をわかりやすく発信することは、国内外の英知の結集と努力を継続させていく上でも大切です。
 関係施設及び周辺地域等との連携を図りながら、原子力事故を後世にお伝えしていくとともに、復興に向けた皆さまの安心につなげるよう努めてまいります。

廃炉資料館は、旧「エネルギー館」を全面リニューアルした施設です。

(4)大熊町

(「ふくしま復興情報ステーション」HP、大熊町 HP より抜粋)

●区域の設定状況

- ・全町避難 → 一部解除
- ・避難指示解除準備区域(2019年4月10日に中屋敷地区を解除)
- ・居住制限区域(2019年4月10日に大川原地区を解除)
- ・帰還困難区域

●人口

- ・2011年3月11日時点の住民登録人口:11,505人
- ・町内居住者:101世帯 119人(2019年11月1日現在)
(住民登録がない居住者を含めた町内居住推計人口 721人)
- ・福島県内への避難者数:7,839人
 福島県外への避難者数:2,466人 合計:10,305人

●市町村役場(仮庁舎等の設置状況)

- ・会津若松出張所
- ・いわき出張所
- ・中通り連絡事務所(郡山市:2018年4月1日)
- ・現地連絡事務所設置(坂下ダム管理事務所)
- ・大川原連絡事務所設置(2018年4月1日)

●公共交通機関(鉄道・バス等)

- ・JR常磐線:浪江駅以南、富岡駅以北は平成31年末までの運転再開を目指している。
- ・原ノ町-富岡間の代行バスが運行開始(平成29年10月)。

(5) 檜葉町

(「ふくしま復興情報ステーション」HP、檜葉町 HP より抜粋)

●区域の設定状況

- ・全町避難 → 避難指示解除
- ・ほぼ全域が避難指示解除準備区域(2015年9月5日解除)

●人口

- ・2011年3月11日時点の住民登録人口:8,011人
- ・町内居住者:1,955世帯 3,877人
- ・住民登録者のうち福島県内の居住者数:6,439人
- 住民登録者のうち福島県外の居住者数: 776人 合計:7,215人

●市町村役場(仮庁舎等の設置状況)

- ・本庁舎(檜葉町内)

●公共交通機関(鉄道・バス等)

- ・JR常磐線:広野ーいわき間を特別ダイヤで運行中。広野ー竜田(檜葉町)間が運行再開。
- ・町内お出かけタクシー助成制度(町内乗降車に限り300円負担)。
- ・町内お買い物ものバス運行(ここなら笑店街への買い物支援バス、乗車料金なし)。

(6) 木戸川漁協

(経済産業省「ふれあいニュースレター」第70号より抜粋)

震災前の木戸川は7万から10万匹の鮭が遡上する、本州でも有数の遡上場でした。震災後、ふ化事業(稚魚の放流)ができませんでしたが、2015年に再開しました。

鮭漁を再開するにあたり、4年間独自にモニタリング調査を進め、鮭については全て放射性物質は不検出という結果が得られました。鮭が川にいる時間は限られておりほとんど海洋で回遊しているため、放射能は出ないという自信がありましたが、調べてみないことにはわからないため調査を継続して実施しました。現在も県の検査場を加工場に備え、安全に配慮しています。

市販書籍『サケが帰ってきた! 福島県木戸川漁協震災復興へのみちのり』(奥山文弥 著、木戸川漁業協同組合 監修)もご覧ください。

今年は、震災後に木戸川産の親サケから採卵してふ化、放流した稚魚が成魚となって初めて川に帰ってくるはずで、10月20日に震災後初めて、9年ぶりに「木戸川鮭祭り」を開催する予定だったが、10月12日の台風19号の影響で中止となりました。

(木戸川漁業協同組合 Facebook ページ 10/27 投稿から引用)

この度の台風19号では、木戸川漁協も大きな被害を受けました。

やな場の骨組み、足場の一部が壊れ、10月24日現在、土嚢でせき止め、修復しながら被害の全容を確認している状況でしたが、25日の大雨でその土嚢も流されてしまいました。(写真は、26日朝の様子です)

復旧作業には、10月いっぱいかかる見込みです。

また、土砂崩れや河岸がえぐられるなどの影響で、川の流れ自体が変わってしまい、6カ所ある漁場も今年は2カ所しか使えない模様です。

鮭はすでに遡上していますが、数はまだ非常に少ないです。遡上した鮭は、来年稚魚を放流するため、人工ふ化させます。ふ化を優先させることで、販売できる十分な数を確保できないことが予想されるため、今年度は即売所での販売は難しいと考えております。

震災後4年間、稚魚の放流ができず、檜葉町の避難指示解除の翌年、2016年春に4年ぶりに放流した稚魚が、今年は戻ってくるのではないかと、漁協でも大きな期待をしていただけない、今回の台風の影響は残念でありませんが、まずは来年放流するための稚魚を確保することを第一に、一匹でも多くの鮭を収穫していこうという方針でおります。

木戸川の鮭を楽しみにしていただいている皆さんに、このようなご報告となってしまふことは心苦しいのですが、引き続き木戸川漁協への応援、よろしくお願いいたします。

4. ご協力

| | |
|-----------------------------------|---|
| ふたばいんふお (講話と富岡町内ご案内) | 双葉郡富岡町大字大字小浜字中央 295 https://futabainfo.com/ |
| 特定廃棄物埋立情報館リプルンふくしま (見学とご案内) | 双葉郡富岡町大字上郡山字太田 526-7 http://shiteihaiki.env.go.jp/tokuteihaiki_umetate_fukushima/reprun/ |
| 東京電力廃炉資料館 (見学とご案内) | 双葉郡富岡町大字小浜中央 378 http://www.tepco.co.jp/fukushima_hq/decommissioning_ac/facilities-j.html |
| 一般社団法人おおくままちづくり公社 (講話と富岡町内ご案内) | いわき市好間工業団地 1-43 https://www.okuma-machizukuri.or.jp/ |
| 木戸川漁業協同組合 (鮭ふ化場の見学) | 双葉郡檜葉町大字前原中川原 68 番地 TEL 0240-25-3414 FAX 0240-25-3417 http://www.kidogawa.jp/ |
| 富岡ホテル (宿泊) | 双葉郡富岡町大字仏浜字釜田 122-6 TEL 0240-22-1180 FAX 0240-22-1182 https://www.tomiokahotel.jp/ |
| azbil みつばち倶楽部 (活動報告冊子化ご支援) | https://www.azbil.com/jp/csr/contribution-to-society/mitsubachi.html |
| シティアクセス株式会社 (バス運行) | 神奈川県横浜市中区新山下 3-8-45 TEL 045-621-1315(代) FAX 045-621-1332 url: http://www.cityaccess.co.jp/ |

5. 行程

| 11月16日(土)行程 | |
|-------------|---|
| 06:45-07:00 | 横浜駅東口 集合 |
| 07:00-08:25 | 横浜東口出発～常磐道 守谷 SA (20分休憩) |
| 08:45-10:00 | 常磐道 守谷 SA～中郷 SA (15分休憩) |
| 10:15-11:00 | 常磐道 中郷 SA～広野 IC (直行) |
| 11:00-12:00 | 常磐道 広野 IC(11:00)～ふたばいんふお(11:25) →(昼食時間 35分) ※守谷到着時間で昼食判断(遅れ時は車内で昼食、定刻時は道の駅で昼食) |
| 12:00-12:30 | 【双葉郡について】 ふたばいんふおで平山さんからレクチャー。バス待機。 |
| 12:30-14:00 | 【富岡町内視察】 平山さんバスに同乗し案内(富岡駅、観陽亭、富岡港、夜ノ森、他各所) |
| 14:00-15:20 | 【りぷるんふくしま見学】 施設で説明と特定廃棄物埋立場見学。バス待機(運転手見学同行可)。 |
| 15:20-15:30 | 【バスで移動】 東京電力廃炉資料館へバスで移動。途中ふたばいんふおで平山さん降車。 |
| 15:30-16:20 | 【東京電力廃炉資料館見学】 施設見学、案内(案内依頼済)。バス待機(運転手見学同行可)。 |
| 16:20-16:30 | 【バスで移動】 ふたばいんふおへバスで移動。参加者降車。バス・渡辺は富岡ホテルへ移動。 |
| 16:30-18:00 | 【お話と質疑応答など】 ふたばいんふおで平山さんのお話と質疑応答など |
| 18:00-18:30 | 富岡ホテルへ徒歩で移動し CI 部屋で夕食の準備など |
| 18:30-19:30 | 適宜夕食 まとまった席の確保は出来ないので適宜(バイキング) |
| 19:00-21:50 | 富岡ホテルの小会議室 参加者で懇親会(全て持ち込み) |
| 21:50-22:00 | 片付け、解散 適宜就寝 |

| | |
|-------------|--|
| 11月17日(日) | |
| 07:00-08:30 | 起床～朝食・出発準備 (08:30 玄関へ集合) |
| 08:30-08:40 | 08:30 チェックアウト (08:40 出発) |
| 08:40-09:00 | 大熊町役場へバスで6号線移動 (約20分) |
| 09:00-10:00 | 大熊町役場でご講話40分(バス待機、運転手お話し同行可) (一般社団法人おおくままちづくり公社 高田事務局長) |
| 10:00-11:00 | 大熊町内バスでご案内40分程 (一般社団法人おおくままちづくり公社 高田事務局長) |
| 11:00-11:30 | 榎葉町木戸川漁協へバスで移動 (約30分) |
| 11:30-12:20 | 榎葉町木戸川漁協の見学とお話(バス待機、運転手お話し同行可) (鈴木ふ化場長) |
| 12:20-12:30 | なら福(昼食)へバスで移動 (10分程) |
| 12:30-13:20 | 昼食 ※運転手分も用意 (約50分、適宜注文) |
| 13:20-13:30 | なら福から竜田駅(または木戸駅) ※立ち寄り予定 |
| 13:30-13:40 | 竜田駅(または木戸駅)～常磐自動車道 広野 IC (帰路) |
| 13:40-14:25 | 常磐自動車道 広野 IC～中郷 SA (15分休憩) |
| 14:40-16:00 | 常磐自動車道 中郷 SA～守谷 SA (15分休憩) |
| 16:00-17:20 | 常磐自動車道 守谷 SA～横浜駅西口 (到着) |
| 17:20-17:30 | 降車・解散 (終了) |

6. 最後に

「参加者アンケート」および「研修レポート(項目指定)」は全員に提出していただきます。
後日になる場合はメール(平文)、文書、郵送・FAX(手書きの時)で送付をお願いします。

期日:2019年12月2日(月)21:00 必着。

- ①メール宛先:info.kfop@gmail.com 件名:【富岡町・大熊町・木戸川漁協視察研修報告】
- ②郵送宛先・住所:〒252-0235 神奈川県相模原市中央区相生 3-2-9 渡辺方
宛名: かながわ「福島応援」プロジェクト 代表 渡辺孝彦



A large rectangular area with a black border, containing horizontal dashed lines for writing.

福島 114 便(視察研修 7 号)富岡町 視察研修 参加者報告

- < 目的 >
- ① 東日本大震災と原発事故を『伝えていく』。
 - ② 地元の現状、今を『正しく知る・伝える』。
 - ③ 自分達にできることを『考える』

視察研修報告(氏名): _____
 (対外活動報告書に氏名は出しません)

1. 視察・研修で、知ったこと、学んだこと、感じたこと、伝えたいことなど

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....



【参加者限り】

(不足する時は裏面へ)

以上

2019年11月17日(日)



【参加者限り】

(不足する時は裏面へ)

以上

2019年11月17日(日)

